第八條　流質物ヲ賣拂ハントスルトキハ五日以前ニ其物品目錄ヲ所轄警察署ニ差出スヘシ

第九條　流質物ヲ賣拂ヒタルトキハ警察官ニ於テ其物品代價及置主ヲ調査スルニ差支ナキ樣流質物賣拂帳ニ記載スヘシ

第十條　贓物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日時ヲ其品觸寫書ニ附記スヘシ

第十一條　品觸到達以後一年內ニ類似ノ物品ヲ質ニ取リ又ハ寄藏シタルトキ若クハ其以前ノ質物及寄藏品中ニ類似ノ物品ヲ發見シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ屆出ツヘシ

第十二條　質物臺帳流質物賣拂帳及品觸寫書ハ十年間保存スヘシ若シ亡失シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ屆出ヘシ

第十三條　警察官ハ何時タリトモ質屋ノ店舗ニ臨ミ質物及帳簿ノ檢査ヲ爲シ時宜ニ依リ其質物ヲ差押ヘ又ハ時々帳簿ヲ差出サシメ之ヲ檢査スルコトアルヘシ質屋ハ之ヲ拒ムヿヲ得ス

第十四條　此條例ニ違背シ又ハ詐僞ノ屆出ヲ爲シタル者ハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條　此條例ヲ一年內ニ再犯シタル者ハ行政ノ處分ヲ以テ其營業ヲ禁止シ又ハ停止スルコトヲ得

第十六條　此條例ヲ犯シタル者ハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第十七條　營業上ニ付テハ家族又ハ雇人ノ所爲ト雖モ營業者其責ニ任スヘシ

第十八條　此條例ヲ施行スルノ方法細則ハ警視總監府知事（東京府ヲ除ク）縣令ニ於テ便宜取設ケ內務卿ニ屆出ツヘシ

證券印稅規則（明治十七年五月第十一號布告）

明治七年七月第八十一號布告證券印稅規則別冊ノ通改正シ明治十七年七月一日ヨリ施行ス

但明治八年七月第百二十號布告ハ同日ヨリ廢止ス

（別冊）

證券印稅規則

第一條　凡ソ財產ノ授受及ヒ契約ノ證明ニ用フル證書帳簿ハ此規則ニ循ヒ印紙ヲ貼用スヘシ

第二條　證書帳簿ヲ分テ二類ト爲シ其稅率ハ左ノ加シ

第一類

左ニ揭クル所ノ證書帳簿ハ金高ノ有無多寡ニ拘ハラス下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ但當座預リ金引出小切手ハ大藏省ニ稅印ノ押捺ヲ請フヿヲ得

一當座預リ金引出小切手	印稅五厘	
一委任狀	同	五厘
一金高記載ナキ約定證文	同	壹錢
一遺金物證文	同	壹錢
一跡式讓證文	同	壹錢
一讓與證文	同	壹錢
一期限ヲ定メサル預リ金證文	同	壹錢
一耕地小作證文	同	壹錢
一雇人請合狀	同	壹錢
一金高記載ナキ諸物品預リ證文	同	壹錢
一金高記載ナキ諸物品借用證文	同	壹錢
一地所家屋預リ證文	同	壹錢
一諸物品切手	同	壹錢

一借地借家證文　同　壹錢
一賣買仕切書　同　壹錢
一保險證文　同　壹錢
一諸會社株券　同　壹錢
一送金手形　同　壹錢
一金錢諸物品通帳　同　壹錢
一金錢諸物品判取帳　一年以內一册ニ付　同　二十錢
一結社約定書　同　壹錢

但結社約定書ニ金圓授受貸借ニ係ル條項アリテ之カ効力ヲ確定スル證書帳簿ハ金高記載ナシト雖モ第二類金高記載アル諸般ノ契約證書ニ準シ印紙ヲ貼用スヘシ

左ニ掲クル所ノ證書ハ金高五圓以上ノモノニ限リ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ

一營業ニ關スル送狀　印稅壹錢
一營業ニ關スル受取書　同　壹錢

右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ都テ一年以內一册ニ付壹錢ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第二項

左ニ掲クル所ノ證書ハ金高ノ多寡ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用スヘシ但爲換手形約束手形ハ用紙ヲ用フヘシ

一金錢借用證文
一地所家屋賣買證文
一金高記載アル諸物品預リ證文

一金高記載アル諸物品借用證文
一諸物品賣買證文
一金錢定規預リ證文
一金高記載アル諸般ノ契約證書

金高壹圓以上二十圓未滿　印稅壹錢
金高二十圓以上五十圓未滿　同　貳錢
金高五十圓以上百圓未滿　同　四錢
金高百圓以上百五十圓未滿　同　六錢
金高百五十圓以上貳百圓未滿　同　八錢
金高貳百圓以上三百圓未滿　同　十壹錢
金高三百圓以上四百圓未滿　同　十四錢
金高四百圓以上六百圓未滿　同　二十錢
金高六百圓以上八百圓未滿　同　二十六錢
金高八百圓以上千圓未滿　同　三十二錢
金高千百圓以上千四百圓未滿　同　三十八錢
金高千四百圓以上千七百圓未滿　同　四十四錢
金高千七百圓以上二千圓未滿　同　五十錢
金高二千圓以上二千五百圓未滿　同　六十錢
金高二千五百圓以上三千圓未滿　同　七十錢
金高三千圓以上三千五百圓未滿　同　八十錢

金高三千五百圓以上四千圓未滿　同　九十錢
金高四千圓以上　同　壹　圓

右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ其附込見積金高ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ

金高百圓未滿　印稅四錢
金高百圓以上總テ諸證書稅率ニ據ルヘシ

一金錢當座預リ證文　印稅壹錢
一質物預リ證小札　同　二錢
金高壹圓以上二十圓未滿
金高二十圓以上

右諸證書夫通帳ト爲ストキハ其附込見積金高ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ

金高百圓未滿　印稅二錢
金高百圓以上　同　四錢

一爲換手形　印稅一錢
一荷爲換手形　同　二錢
一約束手形　同　四錢
金高五十圓未滿　同　八錢
金高五十圓以上百圓未滿　同　十五錢
金高百圓以上二百圓未滿
金高二百圓以上五百圓未滿
金高五百圓以上千圓未滿
金高千圓以上二千圓未滿　同　二十五錢
金高二千圓以上　同　五十錢

第三條　前條ニ揭クル所ノ證書帳簿ト効用ヲ同フスルモノハ其名稱ニ拘ハラス稅率ニ照シ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第四條　印紙ヲ貼用スヘキ證書帳簿ニシテ第五條ノ手續ニ循ヒ印紙ヲ貼用セサルモノハ民事裁判上之ヲ受理セス但處罰ヲ受クル後印紙ヲ貼用シタルモノハ此限ニ在ラス

第五條　印紙ハ證書ノ差出人又ハ帳簿主ニ於テ證書ハ授受ノ前帳簿ハ使用ノ前ニ貼用シ證書帳簿記名ノ下ニ押捺スル印ヲ以テ證書帳簿ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ消印スヘシ

第六條　印紙及ヒ手形用紙ノ種類定價ハ布達ヲ以テ之ヲ定ム

第七條　印紙及ヒ手形用紙ハ官ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ非サレハ之ヲ賣捌クコトヲ得ス

第八條　印紙ヲ貼用スヘキ帳簿仕切書送リ狀ハ主任官之ヲ檢査スルコトアルヘシ

第九條　左ニ揭クル所ノ證書帳簿ハ印紙ヲ貼用スルコトヲ要セス

一官廳ヨリ差出ス證書帳簿
一官吏準官吏若クハ布告布達又ハ達ヲ以テ定メタル議員若クハ公立學校病院ニ從事スルモノ各其職務ニ依テ用フル證書
一國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ官廳ニ差出ス預リ金ニ對スル抵當證書
一國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ官廳ニ對シタル諸上納金ノ預リ證書帳簿
一金員記載アル官廳ヨリノ命令書ニ對シ國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ差出ス請書
一諸上納金ニ付國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ納人ヘ差出ス請取證書
一罹災救助金獻金寄附金ニ關シ人民ヨリ官廳ニ差出ス證書

第十條　第二類ノ帳簿ハ初丁ヘ附込見積金高及ヒ使用期限紙數ヲ記載スヘシ但物品ノ授受ニ關スルモノハ其代價ヲ記載スヘシ

第十一條　證書帳簿ニ稅率ノ異ナルモノヲ雜記スルトキハ各相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十二條　印紙貼用濟第二類ノ帳簿見積金高又ハ使用期限ノ滿チタルトキハ其旨該帳簿ニ記載シ置キ主任官檢査ノ節之レニ檢印ヲ受クヘシ

第十三條　前條ノ帳簿餘白アリテ尙之ヲ使用セントスルトキハ第十條ノ手續ヲ以テ更ニ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十四條　第二類ノ帳簿見積金高未タ滿タサルカ又ハ使用期限未タ盡キサルニ紙數盡キタルトキハ更ニ紙數ヲ增加スルコトヲ得此場合ニ於テハ其帳簿初丁見積金高又ハ期限ノ側其事由及ヒ增加シタル紙數ヲ記載スヘシ

第十五條　證書帳簿ニ外國貨幣ヲ以テ員數ヲ記載スルトキハ內國ノ貨幣ニ改算シタル金高ヲ附記シ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十六條　取換セ證書ハ雙方トモ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十七條　證書ニ副證書ヲ附シ又ハ裏書等ヲ爲シ本證書ト効用ヲ異ニスルモノ若クハ金高ニ增減ヲ生スルモノハ其副書又ハ其裏書ニ就キ更ニ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十八條　此規則ヲ犯シ脫稅ニ係ルモノハ處罰ヲ受クル後證書帳簿ノ受取人ニ於テ相當ノ印紙ヲ貼用スルヿヲ得

第十九條　印紙ヲ貼用スヘキ證書帳簿ニ之ヲ貼用セス若クハ貼用不足スルモノ及ヒ手形用紙ヲ用ヒス若クハ不足稅ノ手形用紙ヲ用ヒタルモノハ脫稅高二十倍ノ科料又ハ罰金ニ處ス其證書帳簿ヲ受取タルモノ亦同シ

第二十條　第十八條ノ場合ヲ除ク外第五條ノ手續ニ據テ消印ヲ爲サス又ハ他ノ印ヲ以テ消印シタルモノハ印稅高十倍ノ科料又ハ罰金ニ處ス其證書帳簿ヲ受取タルモノ亦同シ

第二十一條　此規則ヲ犯シタル證書帳簿ニ請人證人トシテ加印シタルモノハ各正犯ニ係ル科料罰金ノ半額ニ相當スル科料又ハ罰金ニ處ス

第二十二條　第八條ノ證書帳簿ノ檢査ヲ拒ミタルモノハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條　第十條及ヒ第十三條ヲ犯シタルモノハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條　第十二條及ヒ第十四條ヲ犯シタルモノハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十五條　第七條ヲ犯シタルモノハ所持ノ印紙及ヒ賣得金ヲ沒收シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條　前數條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

◉獸醫免許規則明治十八年八月第二十八号布告

獸醫免許規則別冊ノ通制定シ明治十九年七月一日ヨリ施行ス

（別冊）

獸醫免許規則

第一條　獸醫ハ獸醫學術ノ試驗ヲ受ケ農商務卿ヨリ開業免狀ヲ得タル者トス

第二條　開業免狀ヲ得ントスル者ハ試驗及第證書ヲ以テ地方廳ヲ經由シテ農商務省ニ願出ツヘシ

第三條　官立及府縣立ノ獸醫學校若クハ農學校ニ於テ獸醫學ノ卒業證書ヲ得タル者其證書ヲ以テ開業免狀ヲ得ンコトヲ願出ツルトキハ農商務卿ハ試驗ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第四條　外國ノ獸醫學校若クハ農學校ニ於テ獸醫學ヲ卒業シタル者或ハ外國ニ於テ獸醫ノ開業免許ヲ得タル者其卒業證書又ハ開業證書ヲ以テ開業免狀ヲ得ンコトヲ願出ツルトキハ農商務卿ハ

其證書ヲ審査シ試驗ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第五條　獸醫ニ乏シキ地ニ於テハ府知事縣令ノ具狀ニヨリ農商務卿ハ獸醫學術ノ試驗ヲ經サル者ト雖モ其履歷ニヨリ假開業免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第六條　開業免狀ヲ得ル者ハ免狀下付ノ節手數料金壹圓ヲ納ムヘシ

第七條　開業免狀ヲ得タル者ハ氏名本籍ハ農商務省ノ獸醫籍ニ登錄シ時々之ヲ公告スヘシ

第八條　開業免狀ヲ毀損亡失シ又ハ氏名本籍ノ變換ニヨリ免狀ノ書換ヲ願フ者ハ其事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シテ農商務省ニ願出ツヘシ

第九條　開業免狀ノ書換ヲ願フ者ハ免狀下付ノ節手數料金二十五錢ヲ納ムヘシ

第十條　獸醫廢業又ハ死亡シタルトキハ地方廳ヲ經由シテ其開業免狀ヲ農商務省ニ返納スヘシ

第十一條　獸醫其業ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行爲アルトキハ農商務卿其業ヲ停止若クハ禁止スルコトアルヘシ

但其事開業免狀ヲ得ルノ前ニ在リト雖モ本條ニ準シ處分スルコトアルヘシ

第十二條　前條ニ據リ獸醫業禁止ノ處分ヲ受ケタル者アルトキハ地方廳ニ於テ直チニ其開業免狀ヲ取上ケ之ヲ農商務省ニ返納スヘシ其停止ノ處分ニ係ルモノハ幾年月日間停業シタル旨ヲ開業免狀ニ裏書シ廳印ヲ捺シテ之ヲ本人ニ下付スヘシ

第十三條　農商務卿ハ獸醫業禁止ノ處分ヲ爲シタル後ト雖モ本人ノ行狀ヲ勘査シ特ニ其禁止ヲ解クコトアルヘシ

第十四條　官許ヲ得スシテ獸醫ノ業ヲ爲シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

●種痘規則 明治十八年十一月第三十四號布告

種痘規則左ノ通制定シ明治十九年一月一日ヨリ施行ス

但明治九年內務省甲第八號及甲第十六號布達ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

種痘規則

第一條　種痘ハ小兒出生後滿一年以內ニ之ヲ行フヘシ若シ不善感ナルトキハ更ニ一週年內ニ再三種ヲ行フヘシ

第二條　種痘ハ善感後ト雖モ五年乃至七年ニ再種ヲ行ヒ再種後五年乃至七年ニ二種ヲ行フヘシ

第三條　天然痘流行ノ兆アルトキハ第一條第二條ノ期限ニ拘ハラス掛官吏ノ指定シタル期日內ニ種痘ヲ行フヘシ

第四條　種痘ヲ受クヘキ者病氣或ハ事故アリテ第一條第二條第三條ノ時期ニ種痘ヲ行フヿ能ハサルトキ病氣ハ醫師ノ診斷書事故ハ親戚又ハ隣保ノ證印ヲ爲シタル證書ヲ副ヘ戶長役場ニ屆出ヘシ

第五條　種痘ヲ受ケシ者ハ醫師ノ指定シタル日ニ於テ撿診ヲ受ケ痘漿採取ヲ要スルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第六條　種痘濟ノ者ハ醫師ヨリ種痘證ヲ受領シ戶長役場ニ屆出ヘシ

但天然痘ニ罹リタル者ハ醫師ヨリ其證ヲ受領シ本條ニ準スヘシ

第七條　十六歲未滿ノ者ノ尊長後見人若クハ雇主等ニシテ現ニ其幼者ヲ監督スル者ハ前各條ノ責ニ任スヘシ

貧院育兒院等ヘ入院ノ者ハ該主長ニ於テ前各條ノ責ニ任スヘシ

第八條　醫師ハ種痘ノ善感不善感ヲ撿診シ種痘證ヲ付與スヘシ

但天然痘ニ罹リタル者ヲ治療シタルトキハ本條ニ準シ其證ヲ付與スヘシ

第九條　第一條第二條第三條第四條第五條第六條及第八條ヲ犯シタル者ハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス

第十條　府知事縣令ハ種痘明細表ヲ製シ毎年一月七月ノ兩度内務卿ニ報告スヘシ

第十一條　此規則ヲ施行スル方法細則ハ府知事縣令ニ於テ便宜取設ケ内務卿ニ屆出ヘシ

●信號器製造取締（明治十九年六月遞信省令第十二号）

明治十八年八月第二十七號布告海上衝突豫防規則改正追加ニ記載シタル信號器中星火ヲ發スル榴彈或ハ火箭信號焰管及雷彈ハ遞信省ノ許可ヲ受ケタルモノニ非サレハ之ヲ製造スルヲ得ス犯ス者ハ貳圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

○

●獸類傳染病豫防規則（明治十九年九月農商務省令第十一号）

獸類傳染病豫防規則左ノ通制定シ明治二十年一月一日ヨリ施行ス

但明治九年二月内務省乙第二十號達其他獸類ノ傳染病ニ關スル從前ノ達類ハ本規則施行ノ日ヨリ總テ廢止ス

獸類傳染病豫防規則

第一條　此規則ニ稱スル獸類トハ牛馬羊豕ヲ謂ヒ傳染病トハ左ノ諸病ヲ謂フ

一　牛疫

二　炭疽熱

三　鼻疽及皮疽

四　傳染性胸膜肺炎

五　傳染性鵝口瘡

六　羊痘

第二條　獸類傳染病ニ罹リタルトキ若クハ其症候ノ疑アルトキハ所有者又ハ管理者ハ其患畜ト健畜トヲ隔離シ獸醫ヲシテ患畜及之ニ接近シタル獸類ヲ診察セシムヘシ

第三條　獸醫ハ獸類ヲ診察シ傳染病ト鑑定シタルトキハ所有者又ハ管理者ト連署シ直ニ警察署及戸長役場ニ屆出ツヘシ

第四條　獸醫牛疫ト診斷シタルトキハ警察官吏及獸醫立會ノ上所有者又ハ管理者ニ於テ之ヲ撲殺スヘシ

第五條　第四條ノ場合ニ於テハ三人以上ノ評價ヲ以テ發病前ノ價格ヲ定メ所有者ニ左ノ手當金ヲ下付スヘシ

評價金二十五圓マテ　手當金評價十分ノ四

評價金五十圓マテ　同　十分ノ三

評價金百圓マテ　同　十分ノ二

評價金二百五十圓マテ　同　十分ノ一

評價金五百圓マテ　同　十五分ノ一

評價金千圓マテ　同　二十五分ノ一

第六條　獸醫傳染病蔓延ノ兆候アリト認ムルトキハ直ニ其旨ヲ警察署及戸長役場ニ屆出ツヘシ

第七條　第三條ノ屆ヲ受ケタル戸長役場ニ於テハ其旨ヲ患畜所在ノ近傍ヘ榜示スヘシ

第八條　傳染病畜ノ全癒又ハ斃死シタルトキ若クハ傳染病畜ヲ撲殺シタルトキハ其所有者又ハ管理者ハ獸醫ノ診斷書ヲ添ヘ直ニ警察署及戸長役場ニ屆出ツヘシ

第九條　傳染病ニ罹リテ斃死シ又ハ傳染病ニ由リテ撲殺シタル獸類並ニ其排泄物及之ニ觸レタル飼料褥草等ハ警察官吏ノ指定シタル場所ニ於テ燒棄スルカ又ハ消毒法ヲ施シ深六尺以上ノ坑ヲ堀リテ埋沒スヘシ

但埋沒シタル場所ハ十二箇年ノ後ニアラザレハ發掘スルヲ得ス

第十條　傳染病畜及其排泄物ニ觸レタル物品若クハ看護者ハ勿論其患畜ノ在リシ場所ハ獸類ノ所有者又ハ管理者ニ於テ消毒法ヲ行フヘシ

第十一條　道路ニ於テ傳染病ニ罹リタル獸類若クハ其死體ハ警察官吏ノ指定シタル場所ニアラザレハ移轉スルヲ許サス

第十二條　傳染病ノ流行ニ際シ警視總監北海道廳長官府縣知事ハ獸類市場ノ開設及斃牛馬化成ニ開スル營業ヲ停止スルヲ得

但本條ノ場合ニ於テハ停止又ハ解停ノ都度其旨ヲ農商務大臣ニ屆出ツヘシ

第十三條　第三條第六條第八條ノ屆ヲ受ケタル戸長役場ハ郡區役所ヲ經警察署ハ直ニ所轄廳(警視廳北海道廳ヲ云フ)ニ屆出ツヘシ

第十四條　警視總監北海道廳長官府縣知事ハ第三條及第六條ニ該當スヘキ屆ヲ得タルトキハ直ニ其旨ヲ管內ニ告示シ且近接ノ地方廳ニ報告スヘシ

但本條ノ報告ヲ得タル地方廳ハ直ニ其旨ヲ管內ニ告示スヘシ

第十五條　警視總監北海道廳長官府縣知事ハ第十三條ノ屆ヲ得タルトキハ毎土曜日其旨ヲ農商務大臣ニ屆出ツヘシ

第十六條　警視總監北海道廳長官府縣知事ハ第六條ニ該當スヘキ屆ヲ得タルトキ及管下接近ノ地方ニ傳染病蔓延ノ兆候アリトノ報告ヲ得タルトキハ農商務大臣ノ允許ヲ得テ豫防線ヲ劃シ獸類ノ出入往來ヲ停止スルヲ得

第十七條　牛疫蔓延ノ際ニ限リ其患畜ニ接近シタル牛ハ假令健康ノモノタリトモ警視總監北海道廳長官府縣知事ニ於テ農商務大臣ノ允許ヲ經タル後之ヲ撲殺セシムルヲ得

但本條ノ場合ニ於テハ第五條ノ手續ニ據リ評價金ノ全額ヲ下付スヘシ

第十八條　牛疫ヲ除クノ外傳染病蔓延ノ際ニ於テハ警視總監北海道廳長官府縣知事ハ農商務大臣ノ允許ヲ得タル後其患畜ヲ撲殺セシムルヲ得

但本條ノ場合ニ於テハ第五條ノ手續ニ據リ手當金ヲ下付スヘシ

第十九條　此規則ニ違背シタル獸醫及獸類所有者又ハ管理者ハ二圓以上廿五圓以下ノ罰金ニ處ス

但刑法ニ正條アルモノハ此限ニアラス

所得稅法(明治二十年三月勅令第五號)

朕所得稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

所得稅法

第一條　凡ソ人民ノ資產又ハ營業其他ヨリ生スル所得金高一箇年三百圓以上アル者ハ此稅法ニ依テ所得稅ヲ納ムヘシ

但同居ノ家族ニ屬スルモノハ總テ戸主ノ所得ニ合算スルモノトス

第二條　所得ハ左ノ定則ニ據テ算出スヘシ

第一　公債證書其他政府ヨリ發シ若クハ政府ノ特許ヲ得テ發スル證券ノ利子、營業ニアラサル貸金預金ノ利子、株式ノ利益配當金、官私ヨリ受クル俸給、手當金、年金、恩給金及割賦賞與金ハ直ニ其金額ヲ以テ所得トス

第二　第一項ヲ除クノ外資產又ハ營業其他ヨリ生スルモノハ其種類ニ應シ收入金高若クハ收入物品代價中ヨリ國稅、地方稅、區町村費、備荒儲蓄金、製造品ノ原質物代價、販賣品ノ原價、種代肥料、營利事業ニ屬スル場所物件ノ借入料、修繕料、雇人給料、負債ノ利子及雜費ヲ除キタルモノヲ以テ所得トス

第三　第二項ノ所得ハ前三箇年間所得平均高ヲ以テ算出スヘシ但所得收入以來未タ三年ニ滿タザルモノハ月額平均其平均ヲ得難キモノハ他ニ比準ヲ取リテ算出スヘシ

第三條　左ニ揭クルモノハ所得稅ヲ課セス

第一　軍人從軍中ニ係ル俸給

第二　官私ヨリ受クル旅費傷痍疾病者ノ恩給金及孤兒寡婦ノ扶助料

第三　營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ所得

第四條　所得稅ノ等級及稅率左ノ如シ

等級		稅率
第一等	所得金高三万圓以上	百分ノ三
第二等	所得金高二万圓以上	百分ノ二半
第三等	所得金高壹万圓以上	百分ノ二
第四等	所得金高千圓以上	百分ノ一半
第五等	所得金高三百圓以上	百分ノ一

但所得金高ハ圓位未滿ノ端數ヲ算セス

第五條　所得稅ハ前半年分ヲ其年九月ニ後半年分ヲ翌年三月ニ納ムヘシ

第六條　此稅法ニ依リ稅金ヲ納ムヘキ所得アル者ハ其年所得ノ豫算金高及種類ヲ記シ毎年四月三十日マテニ居住地ノ戶長ヲ經テ郡區長ニ屆出ヘシ

第七條　各郡區役所管轄內ニ七名以下ノ所得稅調査委員ヲ置キ毎年調査委員會ヲ開キ所得稅ニ關スル調査ヲ爲サシム

調査委員定數ノ外五名以下ノ補缺員ヲ置キ缺員ノ補充ニ備フヘシ

調査委員及補缺員ニ撰ハレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第八條　調査委員ハ其郡區內ノ撰擧ヲ以テ之ヲ定ム

第九條　調査委員ノ撰擧人被撰人ハ二十五歲以上ノ男子ニシテ其郡區內ニ現住シ所得稅ヲ納ムル者ニ限ル但府縣會規則第十三條第一欵第二欵第三欵第四欵ニ觸ルヽ者ハ被撰人タルコトヲ得ス

同條第一欵第二欵第三欵ニ觸ルヽ者ハ撰擧人タルヿヲ得ス

第十條　郡區長ハ各町村內ニ五名ヨリ多カラサル町村撰擧人ノ員數ヲ定メ其町村人民中第九條ノ資格ヲ有スル者ヲシテ互撰セシム但便宜ニヨリ數町村ヲ合シテ五名ヨリ多カラサル撰擧人ヲ定ムルコトヲ得

町村撰擧人ハ第九條ノ範圍內ニ於テ調査委員及補缺員ヲ撰擧スヘシ

第十一條　調査委員ノ任期ハ滿四年トシ二年毎ニ全數ノ半ヲ改撰ス但第一回ノ改撰ハ抽籤ヲ以テ其退任者ヲ定ム

第十二條　調査委員ノ手當、旅費其他調査ニ關スル費用ハ國庫ヨリ之ヲ支給ス

第十三條　郡區長ハ第六條ノ屆書ニ據リ所得金高下調書ヲ製シ其屆書共ニ調査委員會ニ付スヘシ

第十四條　郡區長ハ納稅者ト認ムルモノニシテ第六條ノ期限ヲ過キテ其屆出ヲ爲サヽル者アルトキハ所得金高ノ見積ヲ立テ之ヲ調査委員會ニ付スヘシ

第十五條　調査委員會ハ郡區長ノ招集ニ由リ之ヲ開ク調査委員會ノ會長ハ郡區長ヲ以テ之ニ充ツ郡區長缺席スルトキハ會員ノ互撰ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條　調査委員會ハ會員過半數出席スルニアラサレハ會議ヲ開クコトヲ得ス會議ハ出席員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ可否スル所ニ依ル但自己ノ所得ニ關スルトキハ其會議ニ與ルコトヲ得ス

第十七條　郡區長ハ調査委員會ノ決議ニ據リ各納稅者ノ所得稅等級金額ヲ定メ之ヲ納稅者ニ達スヘシ

第十八條　郡區長ハ調査委員會ノ決議ニ關シ意見アルトキハ府縣知事ニ具狀シ指揮ヲ請フヘシ

第十九條　納稅者ニ於テ所得稅ノ等級金額ヲ不當トスルトキハ其達ヲ受ケタル日ヨリ二十日以內ニ所得金高明細書及其證憑トナルヘキモノヲ添ヘ府縣知事ニ申出ルコトヲ得但此場合ニ於ケルモ其稅金ハ達ヲ受ケタル金額ニ從テ之ヲ納ムヘシ

第二十條　府縣知事ハ第十八條第十九條ノ場合ニ於テハ府縣常置委員會ニ付シテ調査セシメ其決議ニ據テ之ヲ處分スヘシ但其處分納稅後ニ涉ルトキハ稅額ノ不足アルモノハ之ヲ追徵シ過剩アルモノハ之ヲ還付スヘシ

第二十一條　調査委員會又ハ常置委員會ハ此稅法ニ關シ調査上必要ト認ムルトキハ納稅者ニ尋問スルコトヲ得

第二十二條　調査委員其他所得稅ノ調査ニ關スル者ハ納稅者ノ資產及所得ニ係ル事件ヲ他ニ漏洩スヘカラス

第二十三條　納稅者其納期前ニ於テ所得金高十分ノ五以上ヲ減損シタルトキハ郡長區ニ申出ルコトヲ得郡區長ハ事實ヲ審査シテ其稅額ヲ減シ所得金高一箇年三百圓ヲ下ルモノハ之ヲ免稅スヘシ但既納ノ稅金ハ之ヲ還付セス

第二十四條　所得金高ヲ隱蔽シテ逋稅シタル者ハ其逋稅金高三倍ノ罰金ニ處ス但自首スル者ハ其稅金ヲ追徵シ其罪ヲ問ハス

第二十五條　第二十二條ヲ犯シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條　第六條ノ屆出ヲ爲サヽル者ハ壹圓以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十七條　此稅法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十八條　此稅法施行ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二十九條　此稅法ハ明治二十年七月一日ヨリ施行ス

但北海道沖繩縣及東京府管轄小笠原島伊豆七島ニ於テハ官府ヨリ受クル俸給手當金年金及恩給金ノ外ハ當分ノ內之ヲ施行ス

※新聞紙條例明治二十年十二月勅令第七十五号

朕新聞紙條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

新聞紙條例

第一條　新聞紙ヲ發行セントスル者ハ發行ノ日ヨリ二週日以前ニ發行地ノ管轄廳東京府ハ警視廳ヲ經由シテ內務省ニ屆出ヘシ

第二條　新聞紙發行ノ屆書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　題號

二　記載ノ種類

三、發行ノ時期

四　發行所及印刷所

五　發行人、編輯人、及印刷人ノ氏名

編輯人ハ二人以上アルトキハ其主トシテ編輯事務ヲ擔當スル者タルヘシ但紙面ニ部門ヲ分チ其各部門ニ主任編輯人ヲ設クルコトヲ得

第三條　屆出ヲ爲シタル後、題號、記載ノ種類又ハ發行人ヲ變更セントスルトキハ二週日以前ニ第一條ノ手續ニ從ヒ屆出ヘシ

發行ノ時期、發行所、印刷所、編輯人、印刷人ニ變更アリタルトキハ一週日以內ニ第一條ノ手續ニ從ヒ屆出ヘシ

第四條　發行人死去シ又ハ法律上其資格ヲ失ヒタルトキハ一週日以內ニ發行人ヲ定メ第一條ノ手續ニ從ヒ屆出ヘシ其屆出ヲナスマテハ假發行人ノ名義ヲ以テ發行スルコトヲ得

第五條　發行ノ屆出ヲナサシタル日又ハ發行休止ノ日ヨリ五十日ヲ過キテ發行セサルトキハ其屆出ノ効ヲ失フモノトス

第六條　內國人ニシテ滿二十歲以上ノ男子ニ非サレハ發行人編輯人印刷人トナルコトヲ得ス

公權ヲ剝奪セラレタル者及公權ヲ停止セラレタル者其停止間發行人、編輯人、印刷人トナルコトヲ得ス

第七條　編輯人、印刷人、ハ互ニ相兼ヌルコトヲ得ス

第八條　發行人ハ保證トシテ左ノ金額ヲ屆書ト共ニ管轄廳（東京府ハ警視廳）ニ納ムヘシ

一　東京ニ於テハ千圓

一　京都大阪橫濱兵庫神戶長崎ニ於テハ七百圓

一　其他ノ地方ニ於テハ三百五十圓

一　三回以下發行スルモノハ各前記ノ半額

保證金ハ時價ニ準シタル公債證書又ハ國立銀行ノ預手形ヲ以テ之ヲ納ムルコトヲ得

學術、技藝、統計、官令又ハ物價報告ニ關スル事項ノミヲ記載スルモノハ本條ノ限ニ非ス

第九條　保證金ハ新聞紙ノ發行ヲ廢止シ又ハ其發行ヲ禁止セラレタルトキハ之ヲ還付ス

第十條　第一條第三條第四條ノ屆出ヲ爲サス又ハ保證金ヲ納ムヘキ新聞紙ニシテ保證金ヲ納メスシテ發行スルモノハ正當ノ屆出ヲナサシ又ハ保證金ヲ納ムル迄警視總監又ハ地方長官ニ於テ其發行ヲ差止ヘシ

第十一條　新聞紙ハ每號ニ發行人、編輯人、印刷人ノ氏名發行所ヲ記載スヘシ

發行人、印刷人、ノ外何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハラス新聞紙又ハ記載ノ事項ニ署名スル者ハ總テ編輯人ト共ニ其責ニ當ラシム

第十二條　新聞紙ハ其發行每ニ先ツ內務省ニ二部管轄廳（東京府ハ警視廳）及管轄始審裁判所檢事局ニ各一部ヲ納ムヘシ

第十三條　新聞紙ニ記載シタル事項ノ錯誤ニ付キ其事項ニ關スル當人又ハ關係アル者ヨリ正誤又ハ正誤書辨駁書ノ掲載ヲ求メタルトキハ其求ヲ受ケタル後其次回又ハ第三回ノ發行ニ於テ正誤ヲナシ又ハ正誤書辨駁書ノ全文ヲ掲載スヘシ若シ正誤書辨駁書ノ字數原文ノ二倍ヲ超過スルトキハ其超過ノ字數ニ付其新聞社ノ定メタル普通廣告料ト同一ノ代價ヲ要求スルコトヲ得

正誤辨駁ハ原文ト同號ノ活字ヲ用ヒ同一欄內ノ首部ニ掲載スヘシ

正誤辨駁ノ文章若タハ趣旨法律ニ觸ルヽトキ又ハ之ヲ求ムル者其氏名住所ヲ明記セサルトキハ掲載スルヲ要セス

第十四條　官報又ハ他ノ新聞紙ヨリ抄錄セシ事項ニシテ其官報又ハ新聞紙ニ於テ正誤又ハ正誤書辨駁書ヲ掲載シタルトキハ當人又ハ關係アル者ノ求メナシト雖モ其新聞紙ヲ得タル後其次回又ハ第三回ノ發行ニ於テ正誤スヘキコト前條ノ例ニ依ル但廣告料ヲ要求スルコトヲ得ス

第十五條　新聞紙ニ記載シタル事項ニ付裁判ヲ受ケタルトキハ其新聞紙ノ次回發行ニ於テ宣告ノ全文ヲ掲載スヘシ

第十六條　重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ハ公判ニ附セサル以前ニ於テ之ヲ記載スルコトヲ得ス

傍聽ヲ禁シタル訴訟ニ關スル事項ハ之ヲ記載スルコトヲ得ス

第十七條　刑事ニ關シタル罪犯ヲ曲庇スルノ論說ヲ記載スルコトヲ得ス
刑事ノ被告人又ハ刑律ニ觸レタル犯罪人ヲ救護シ又ハ賞恤スル爲メニスル文書ヲ掲載スルコトヲ得ス

第十八條　公ニセサル官ノ文書及上書建白請願書ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ詳畧ニ拘ラス之ヲ記載スルコトヲ得ス
官廳ノ記事及法律ニ依リ傍聽ヲ禁シタル公會ノ議事ハ詳略ニ拘ラス之ヲ記載スルコトヲ得ス

第十九條　治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムル新聞紙ハ內務大臣ニ於テ其發行ヲ禁止シ若クハ停止スルコトヲ得

第二十條　新聞紙ノ發行ヲ禁止シ若クハ停止シタルトキハ內務大臣ハ其新聞紙ノ發賣頒布ヲ禁シ其新聞紙ヲ差押フルコトヲ得

第二十一條　外國ニ於テ發行シタル新聞紙ニシテ治安ヲ妨害シ及ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ內務大臣ハ其新聞紙ノ內國ニ於ケル發賣頒布ヲ禁シ其新聞紙ヲ差押フルコトヲ得

第二十二條　陸軍大臣海軍大臣ハ特ニ命令ヲ發シテ軍隊軍艦ノ進退又ハ軍機軍畧ニ關スル事項ノ記載ヲ禁スルコトヲ得

第二十三條　新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ公訴ヲ起ストキハ檢察官ハ假ニ其新聞紙ヲ差押フルコトヲ得
裁判官ハ犯罪ノ情狀ニ依リ差押ヘタル新聞紙ヲ沒收スルコトヲ得

第二十四條　新聞紙ニ記載シタル事項ニ付テ訴訟ヲ起シタルトキ原告ニ於テ其新聞紙ニ署名シタル編輯人ハ實際主トシテ編輯事務ヲ擔當スル者ニアラスシテ他ニ主任編輯人アルヿヲ證明シタル場合ニ於テハ裁判官ハ其署名シタル編輯人及實際ノ主任編輯人ヲ共ニ其責ニ當ラシムヘシ

第二十五條　新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ誹毀ノ訴アル場合ニ於テ其私行ニ涉ルモノヲ除クノ外裁判所ニ於テ其人ヲ害スルノ惡意ニ出テス專ラ公益ノ爲ニスルモノト認ムルトキハ被告人ニ事實ヲ證明スルコトヲ許スコトヲ得若シ其證明ノ確實ヲ得タルトキハ誹毀ノ罪ヲ免ス其損害賠償ノ訴ヲ受ケタルトキモ亦同シ

第二十六條　裁判確定ノ日ヨリ一週日以內ニ裁判費用及罰金ヲ完納セス又ハ損害ヲ賠償セサルトキハ保證金ヲ以テ之ニ充ツヘシ仍ホ足ラサルトキハ刑法徵收處分ニ依ル保證金ヲ以テ裁判費用賠償及罰金ニ充テタルトキハ發行人ハ管轄廳（東京府ハ警視廳）ノ通知ヲ得タル日ヨリ一週日以內ニ其缺額ヲ完納スヘシ、若完納セサルトキハ其之ヲ完納スルニ至ルマテ警視總監又ハ地方長官ニ於テ其發行ヲ差止ヘシ

第二十七條　第一條第三條第四條ノ屆出ヲ爲サス又ハ第六條第七條第十一條第一項第十二條ヲ犯シ又ハ保證金ヲ納ムヘキ新聞紙ニシテ保證金ヲ納メスシテ發行シタルトキハ發行人ヲ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス但詐稱ノ罪ヲ犯スルモノハ罰發行人ニ同シ

第一條第三條第四條ノ屆出ヲ爲スモ實ヲ以テセサルトキハ發行人一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條ノ末項ニ屬スル新聞紙ニシテ保證金ヲ納ムヘキ新聞紙ノ事項ヲ記載シタルトキハ編輯人罰前項ニ同シ

第二十八條　第十三條第十四條第十五條ニ違フトキハ編輯人ヲ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條　第十六條第十七條第十八條ニ違フトキハ編輯人ヲ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條　第二十一條ニ違ヒ發賣頒布ヲ爲ス者ハ罰前條ニ同シ

第三十一條　第二十二條ニ違フトキハ發行人編輯人ヲ一月以上二年以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條　政體ヲ變壞シ朝憲ヲ紊亂セントスルノ論說ヲ記載シタルトキハ發行人編輯人印刷人ヲ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五十圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

本條ヲ犯ス者ハ其犯罪ノ用ニ供シタル器械ヲ沒收ス

第三十三條　猥褻ノ新聞紙ヲ發行スルトキハ發行人編輯人ヲ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條　第十三條ノ場合ニ於テ私事ニ係ルモノハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第三十五條　此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第三十六條　此條例ニ關スル公訴ノ期滿免除ハ六箇月トス

第三十七條　時々ニ發行スル雜誌ノ類ハ出版條例ニ依ルモノヲ除クノ外皆此條例ニ依ル

○

太政官第二十一號布達明治十六年六月

凡ソ官報ニ登載シタルモノハ新聞紙條例ニ依リ記載スルコトヲ得サル者ト雖モ各新聞紙ニ於テ其文ヲ抄錄スルコトヲ得

官報ニ於テ新聞紙ニ記載シタル事項ノ誤ヲ正ストキハ新聞紙條例第二十九條ニ從ヒ正誤ノ全文ヲ登載スヘシ

○

內務省甲第十七號達明治十八年五月

新聞紙ニシテ他ノ新聞紙（歐文新聞ヲ除ク）ニ掲載スル論說ヲ十日以內ニ其新聞紙ニ轉載スルトキハ必ス原新聞紙ノ持主又ハ社主ノ承諾ヲ要セシメ候條現ニ發行ノ新聞紙ハ直チニ向後發行セントスル者ハ出願ノ際其旨持主又ハ社主ヘ相達左ノ書式ニ準シ受書ヲ徵シ當省ヘ進達可致此旨相達候事

但豫メ轉載ノ目的ヲ定メ發行スルモノハ別ニ本文原新聞持主又ハ社主ノ承諾證爲差出受書一同進達候儀ト心得ヘシ

出版條例明治十年十二月勅令第七十六號

朕出版條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

出版條例

第一條　凡ソ機械舍密其他何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス文書圖畫ヲ印刷シテ之ヲ發賣シ又ハ頒布スルヲ出版ト云ヒ其文書ヲ著述シ又ハ編纂シ若クハ圖畫ヲ作爲スル者ヲ著作者ト云ヒ發賣頒布ヲ擔當スル者ヲ發行者ト云ヒ印刷ヲ擔當スル者ヲ印刷者ト云フ

第二條　新聞紙又ハ時々ニ發行スル雜誌ヲ除クノ外文書圖畫ノ出版ハ總テ此條例ニ依ルヘシ但雜誌ニシテ專ラ學術技藝ニ關スル事項ヲ記載スルモノハ內務大臣ノ許可ヲ得テ此條例ニ依ルコトヲ得

第三條　文書圖畫ヲ出版スルトキハ發行ノ日ヨリ到達シ得ヘキ日數ヲ除キ十日前製本三部ヲ內務省ニ送付スヘシ

第四條　官廳ニ於テ文書圖畫ヲ出版スルトキハ其官廳ヨリ發行前製本三部ヲ內務省ニ送付スヘシ

第五條　出版屆ハ著作者又ハ其相續者及發行者連印ニテ之ヲ差出スヘシ但非賣品ハ著作者ノミニテ屆出ルコトヲ得著作者又ハ其相續者ヲ知ルヘカラサルトキハ其由ヲ記シ發行者ヨリ差出スヘシ

學校會社協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖畫ノ屆ハ其學校會社等ヲ代表スル者發行者ト連印シテ之ヲ差出スヘシ

第六條　文書圖畫ノ發行者ハ文書圖畫ノ販賣ヲ以テ營業トスル者ニ限ル但著作者又ハ其相續者ハ發行者ヲ兼ヌルコトヲ得

第七條　文書圖畫ヲ印刷スル者ハ其發行ト否トヲ問ハス印刷ノ年月日及印刷者ノ氏名住所ヲ記載シ其發行ニ係ルモノハ發行者ノ氏名住所ヲ併セテ記載スヘシ

第八條　社則塾則引札諸藝ノ番付普通ノ書式アル諸紙ノ用紙又ハ證書ノ類ハ第三條第六條ニ據ルヲ要セス

第九條　文書圖畫ノ冊號ヲ逐ヒ順次ニ出版スル者ハ其都度第三條ノ手續ヲ爲スヘシ但雜誌ノ類ニ在テハ內務大臣ノ許可ヲ經テ其手續ヲ省畧スルコトヲ得

第十條　一タヒ出版屆ヲ爲シタル文書圖畫ノ再版ハ出版屆ヲ要セスト雖モ若シ改正增減シ又ハ註解附錄繪圖等ヲ加ヘタルモノハ仍ホ第三條ニ依ルヘシ

第十一條　演說若クハ講義ヲ筆記シテ一部ノ書ト爲ストキハ演說者若クハ講義者ヲ以テ著作者トス但演說者若クハ講義者ノ許諾ヲ經スシテ出版シタルモノニ關シテハ其演說者若クハ講義者ハ著作ノ責ニ任セス

他人ノ講義又ハ公然ナラサル演說ハ其講義者又ハ演說者ノ許諾ヲ經ルニ非サレハ其筆記ヲ出版スルコトヲ得ス但本項ニ違フ者ハ版權條例ニ依リ其責ニ任セシム

第十二條　數人ノ著作若クハ數人ノ講義演說ヲ編纂シテ一部ノ書ト爲スモノハ編纂者ヲ著作者ト見做スヘシ

前條第一項ノ但書及第二項ハ本條ニ適用スヘシ

第十三條　翻譯ハ翻譯者ヲ以テ著作者ト見做スヘシ但翻譯トハ漢文ヲ延譯スルモノヲモ包含ス

第十四條　學校會社協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖畫ハ其出版屆ヲナス者ヲ以テ著作者ト見做スヘシ

第十五條　公ニセサル官ノ文書及上書建白請願書ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ詳略ニ拘ラス之ヲ出版スルコトヲ得ス

官廳ノ議事及法律ニ依リ傍聽ヲ禁シタル公會ノ議事ハ詳略ニ拘ラス之ヲ出版スルコトヲ得ス

第十六條　治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムル文書圖畫ヲ出版シタルトキハ內務大臣ニ於テ其發賣頒布ヲ禁シ其刻版及印本ヲ差押ユルコトヲ得ス

第十七條　外國ニ於テ印刷シタル文書圖畫ニシテ治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ內務大臣ハ其文書圖畫ノ內國ニ於ケル發賣頒布ヲ禁シ其印本ヲ差押フルコトヲ得

第十八條　軍事ノ機密ニ關スル事項ヲ記載スル文書圖畫ヲ出版スルコトヲ得ス

第十九條　重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ハ公判ニ付セサル以前ニ於テ之ヲ出版スルコトヲ得ス

第二十條　刑事ニ觸レタル罪犯ヲ曲庇スルノ論說ヲ出版スルコトヲ得ス

刑事被告人又ハ刑事ニ觸レタル犯罪人ヲ救護シ又ハ賞恤スル爲ニスル文書ヲ出版スルヿヲ得ス

第二十一條　第三條ノ屆出ヲ爲サスシテ文書圖畫ヲ出版シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條　發行者自己ノ氏名住所又ハ印刷者ノ氏名住所又ハ出版ノ年月日ヲ記載セサル文書圖畫ヲ發行シタルトキハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ其之ヲ記載スルモ實ヲ以テセサルモノハ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條ヲ犯ス者罰前項ニ同シ

第二十三條　印刷者其氏名住所ヲ其印刷スル所ノ文書圖畫ニ記載セス若クハ記載スト雖モ實ヲ以テセサルモノハ罰前條ニ同シ

第二十四條　政體ヲ變壞シ朝憲ヲ紊亂セントスルノ文書ヲ出版シタルトキハ著作者發行者印刷者

共犯ヲ以テ論シ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五十圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

圖畫ニシテ其目的前項ニ同シキモノハ罰前項ニ同シ

第二十五條　猥褻ノ文書圖畫ヲ出版シタルトキハ著作者發行者共犯ヲ以テ論シ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條　文書圖畫ヲ寫眞トナシ因テ第十八條第二十四條第二十五條ヲ犯ス者ハ各本條ニ依テ處分ス

第二十七條　本條例ニ依リ出版ヲ禁セラレタル文書圖畫ヲ出版シタルトキハ著作者發行者共犯ヲ以テ論シ一月以上二年以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

其發賣頒布ヲ禁セラレタル文書圖畫ヲ發賣頒布スルトキハ發行者又ハ發賣頒布者罰前項ニ同シ

但其未タ發賣頒布セサル文書圖畫ハ之ヲ沒收ス

第二十八條　第二十四條第二十五條第二十七條ノ場合ニ於テ刻版及印本ハ檢察官ニ於テ之ヲ假ニ差押フルコトヲ得差押フル所ノ刻版及印本ハ裁判ノ確定ヲ待チ無罪ナレハ本主ニ還付シ有罪ナレハ沒收ス

第二十九條　前條ノ差押ヲ爲ストキハ製本ノ體裁ニヨリ其差押フヘキ部分ト他ノ部分ト分割シ得ルニ於テハ之ヲ分割スルコトアルヘシ

第三十條　他人ノ講義演說ヲ筆記若クハ編纂シ又ハ他人ノ著作ヲ編纂シタル文書圖畫ヲ出版シ第二十四條第二十五條ヲ犯シタル場合ニ於テ講義者演說者若クハ著作者ニシテ其出版ヲ承諾シタルモノナルトキハ筆記者若クハ編纂者ト同シク其罪ヲ論ス

第三十一條　文書圖畫ヲ出版シ因テ誹毀ノ訴ヲ受ケタル場合ニ於テ其私行ニ涉ルモノヲ除クノ外裁判所ニ於テ其人ヲ害スルノ惡意ニ出テス專ラ公益ノ爲ニスルモノト認ムルトキハ被告人ニ事實ヲ證明スルコトヲ許スコトヲ得若シ其證明ノ確立ヲ得タルトキハ誹毀ノ罪ヲ免ス其損害賠償ノ訴ヲ受ケタルトキモ亦同シ

第三十二條　此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヰス

第三十三條　此條例ニ關スル公訴ノ期滿免除ハ二年トシ其犯罪ト認メラレタル文書圖畫ヲ最後ニ發賣頒布シタル時ヨリ起算ス其發賣頒布セサルモノハ其最後ニ印刷シタル時ヨリ起算ス

第三十四條　文書圖畫ヲ印刷スルトキハ直チニ發賣頒布セスト雖モ其目的發賣頒布ニ在ル者ハ總テ此條例ニ依ル

寫眞版權條例（明治二十年十二月二十八日勅令第七十九号）

朕寫眞版權條例改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

寫眞版權條例

第一條　凡ソ光線ト藥品トノ作用ニヨリ人物器物景色其他象ノ眞形ヲ寫シタルモノヲ寫眞ト云ヒ寫眞ヲ發行シテ其利益ヲ專有スルノ權ヲ寫眞版權ト云フ

第二條　寫眞版權ハ寫眞師ニ屬シ寫眞師死亡後ニ在テハ其相續者ニ屬スルモノトス但他人ノ嘱托ニ係ルモノヽ寫眞版權ハ嘱托者ニ屬シ嘱托者死亡後ニ在テハ其相續者ニ屬スルモノトス

嘱托ニ係ル寫眞ノ種版ニシテ現存スルモノハ版權所有者ニ於テ之ヲ寫眞師ヨリ受取ルコトヲ得ルモノトス

第三條　寫眞版權ノ保護ヲ受ントスルモノハ發行前寫眞一枚ニ付見本二葉及六葉ノ定價ヲ添ヘ版權登錄ヲ內務省ニ願出ヘシ但人物ノ寫眞ハ登錄ヲ待スシテ其保護ヲ受ル者トス

第四條　版權登錄ノ寫眞ニハ其保護年限間ハ版權所有者ノ氏名住所版權登錄ノ年月ヲ記載スヘシ其記載セサル者ハ登錄ノ効ヲ失フモノトス

第五條　内務省ニ於テハ寫眞版權登錄簿ヲ備ヘ置キ登錄ノ願出アリタルトキハ之ヲ登錄シ登錄證書ヲ下付スヘシ

第六條　寫眞版權登錄證書ノ取扱ハ總テ文書圖畫ノ版權登錄證書ニ準スルモノトス

第七條　寫眞版權保護ノ年限ハ登錄ノ月ヨリ十年トス

第八條　版權ノ保護ヲ受ル寫眞ハ之ヲ覆寫シ若クハ機械又ハ舍密ノ作用ニヨリ多數ヲ增製シ得ヘキ方法ヲ以テ寫眞術ト類似ノ摸寫ヲ爲シ及寫眞師ニ於テ本人又ハ其相續者ノ承諾ヲ受スシテ嘱托ニ係ル寫眞ヲ增製スルコトヲ得ス

第九條　第三條ノ手續ヲナサスシテ版權登錄ヲ詐稱シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條　第八條ニ違フ者ハ版權條例ニ據リ僞版ヲ以テ論シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス及損害賠償ノ責ニ任セシム

損害賠償ノ責ハ其原寫眞ノ版權年限終ルノ後一年ヲ以テ期滿得免ノ期トス

第十一條　此條例ニ關スル公訴ノ期限ハ一年トシ其犯罪ト認メラレタル寫眞又ハ摸寫物作爲ノ時ヨリ起算シ其發賣セルモノハ最後ニ發賣シタル時ヨリ起算ス

第十二條　此條例ヲ犯シタルモノニハ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヰス

醬油稅則（明治二十一年六月勅令第四十七號）

朕醬油稅則改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

醬油稅則

第一條　醬油（溜ヲ併稱ス）製造ノ營業ヲ爲サントスル者ハ官廳ニ願出製造場一箇所每ニ免許鑑札ヲ受クヘシ但製造人十六歲未滿ノ幼年者及瘋癲白痴又ハ瘖啞ナルトキハ後見人ヲ立ツヘシ

第二條　醬油製造人ハ左ノ營業稅及造石稅ヲ納ムヘシ

營業稅　製造場一箇所ニ付一個年　金五圓
造石稅　醬油ハ諸味一石ニ付　金壹圓
溜ハ製成一石ニ付　金壹圓

第三條　營業稅ハ一箇年ヲ二期ニ分チ前半年分ハ其年一月三十一日限後半年分ハ同七月三十一日限之ヲ納ムヘシ但新ニ營業ヲ爲ス者ハ免許鑑札ヲ受クルトキ其半年分ノ營業稅ヲ納ムヘシ

第四條　造石稅ハ左ノ期限ニ從ヒ之ヲ納ムヘシ但廢業スル者ハ其節之ヲ納ムヘシ

第一期　五月三十一日限
一月一日ヨリ四月三十日マテノ間査定濟石數ニ係ル稅額

第二期　九月三十日限
五月一日ヨリ八月三十一日マテノ間査定濟石數ニ係ル稅額

第三期　翌年一月三十一日限
九月一日ヨリ十二月三十一日マテノ間査定濟石數ニ係ル稅額

第五條　醬油ハ之ヲ製成スル前ニ溜ハ之ヲ製成シタル後十日以内ニ管廳ニ申出造石數ノ査定ヲ受クヘシ

造石數査定濟ノ醬油ト査定未濟ノ醬油トヲ混和シタルトキハ其總石數ニ付キ更ニ査定ヲ受クヘシ

第六條　醬油製造人廢業ノ際査定未濟ノ醬油ヲ所持スルトキハ管廳ニ申出造石數ノ査定ヲ受ケ其造石稅ヲ納ムヘシ但其醬油ヲ同業者ニ賣渡讓渡ス場合ニ限リ管廳ニ申出檢査ヲ受置キ其買受讓受人ニ於テ第五條ノ査定ヲ受ケ及第四條ノ期限ニ從ヒ造石稅ヲ納ムルコトヲ得

製造場二箇所以上ニ於テ醬油製造ヲ爲ス者其一箇所以上ヲ廢シ査定未濟ノ醬油ヲ他ノ製造場ニ移ストキハ管廳ニ申出檢査ヲ受クヘシ

第七條　免許鑑札ハ貸借賣買及讓渡讓受ヲ爲スコトヲ得ス

第八條　醬油製造人ハ同業者ニ非サル者ニ醬油ヲ製造スル爲メニ製造場ヲ貸渡スコトヲ得ス

第九條　醬油製造人ハ製造場ニ關シ修繕等已ムヲ得サル事故ニ因リ管廳ニ屆出タル後ニ非サレハ造石數査定未濟ノ醬油ヲ其製造場外ニ移スコトヲ得ス

第十條　醬油製造人ハ造石數査定未濟ノ醬油ヲ賣渡貸渡讓渡又ハ自用スルコトヲ得ス但第六條但書ノ場合ハ此限ニ在ラス

第十一條　造石稅ノ査定ヲ經タル醬油其造石稅納期內ニ天災又ハ避ヘカラサル事故ニ因リ廢棄ニ屬シタルトキハ直ニ管廳ニ申出檢査ヲ受ケ該造石稅ノ免除ヲ請フコトヲ得

第十二條　醬油製造人ハ營業ニ係ル要領ヲ帳簿ニ記載スヘシ

第十三條　外國ニ輸出スル醬油ハ輸出ノ節稅關ノ檢査ヲ受置キ輸入港稅關ノ陸揚免狀若クハ其他證憑ト爲ルヘキ書類ニ該港在留ノ我國領事ノ檢印ヲ受ケ之ヲ輸出港ノ稅關ニ差出シ造石稅ノ下戻ヲ請求スルコトヲ得其下戻ノ步合ハ大藏大臣定ムル所ニ依ルヘシ但造石稅ノ下戻ヲ受ケタル醬油ヲ本邦ニ輸入スルトキハ其金額ヲ輸入港稅關ニ還納スヘシ

第十四條　醬油製造人ノ製造スル醬油ハ他ノ依託ヲ受ケ又ハ自家用料ニ供スル者ト雖モ總テ此稅則ニ從フヘシ

醬油製造人ハ製造場外ニ於テ自家用料ノ醬油ヲ製造スルコトヲ得ス

第十五條　醬油請賣ヲ爲ス者ハ自家用料ノ醬油ヲ製造スルコトヲ得ス其同居者亦同シ

第十六條　自家用料ノ爲製造シタル醬油ハ之ヲ賣渡スコトヲ得ス

第十七條　醬油製造人ノ製造場倉庫其他ノ場所醬油仕込高並仕込ニ屬スル原品及營業ニ關スル帳簿ハ當該官吏之ヲ檢査スルコトアルヘシ但該官吏ハ其證票ヲ携帶スヘシ

第十八條　當該官吏ニ於テ此稅則ニ關シ犯罪アリト認知シ又ハ思料スルトキハ其場所ニ立入リ證憑取調ノ處分ヲ爲スコトヲ得但當該官吏ハ其證票ヲ携帶スヘシ

第十九條　免許鑑札ヲ受ケスシテ醬油製造ノ營業ヲ爲シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其醬油及容器製造器械ヲ沒收ス

第二十條　醬油製造人ニシテ醬油ヲ隱蔽シタル者ハ其石數ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル醬油及容器ヲ沒收ス

第十條第十四條第二項ヲ犯シタル者ハ罰前項ニ同シ

第二十一條　第五條第六條ノ査定ヲ受ケサル者第八條第九條第十五條第十六條ヲ犯シタル者及ヒ逋稅ヲ謀ル爲メ帳簿ノ記載ヲ詐リタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ第十五條ヲ犯シタル者ハ仍ホ其犯罪ニ係ル醬油及ヒ容器製造器械ヲ沒收ス

第二十二條　第七條ヲ犯シタル者第六條ノ檢査ヲ受ケサル者及帳簿ノ記載ヲ怠リタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條　此稅則ヲ犯シ沒收スヘキ物品ニシテ既ニ之ヲ賣讓讓渡又ハ消糜シタルトキハ其代金ヲ追徵ス

第二十四條　此稅則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十五條　醬油製造人ノ家屬雇人ニシテ此稅則ヲ犯シタルトキハ其製造人ヲ處罰ス

醬油製造人十六歲未滿ノ幼年者及瘋癲白痴又ハ瘖啞ニシテ此稅則ヲ犯シタルトキハ其後見人ヲ處罰ス

第二十六條　此稅則施行ノ細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二十七條　此稅則ハ明治二十一年九月一日ヨリ施行ス

附則

第二十八條　北海道沖繩縣及東京府管下小笠原島伊豆七島ニハ當分此稅則ヲ施行セス但此稅則施行ノ地ニ輸送スル醬油ヲ製造スル者ハ此稅則ニ從フヘシ

第二十九條　此稅則施行以前ニ免許ヲ受ケタル醬油製造人ニシテ第一條但書ニ該當スル者ハ後見人ヲ立テ三月以內ニ管廳ニ屆出ヘシ

◎船燈製造取締（明治十四年五月第三十四號布告）

明治十三年七月第三十五號布告海上衝突豫防規則ニ記載シタル檣燈及舷燈ハ農商務省ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ製造スルコトヲ得ス犯ス者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

◎地租條例（明治十七年三月第七號布告）

地租條例別冊ノ通制定シ明治六年七月第二百七十二號布告地租改正條例及ヒ地租改正ニ關スル條規其他本條例ニ抵觸スルモノハ廢止ス

但東京府管轄伊豆七島小笠原島函館縣沖繩縣札幌縣根室縣ハ當分從前ノ通タルヘシ

地所條例

第一條　地租ハ地價百分ノ二箇半ヲ以テ一年ノ定率トス

第二條　地租ハ年ノ豐凶ニ依リテ增減セス

第三條　有租地ヲ區別シテ二類トナス

第一類　田、畑、郡村宅地、市街宅地、鹽田、鑛泉地

第二類　池沼、山林、牧場、原野、雜種地（第二類ハ二十二年法律第三十號ニテ改正）

第一類中又ハ第二類中ノ各地目變換スルモノヲ地目變換ト云フ

第二類地ニ勞費ヲ加ヘ第一類地ト爲スモノヲ開墾ト云フ

第一類地又ハ第二類地ノ山崩、川欠、押堀、石砂入、川成、海成、湖水成等ノ如キ天災ニ罹リ地形ヲ變シタルモノヲ荒地ト云フ

第四條　公立學校地、鄉村社地、墳墓地、用惡水路、溜池、隄塘、井溝、鐵道用地、禁伐林及ヒ公衆ノ用ニ供スル道路ハ地租ヲ免ス（二十二年第三十號ニテ改正）

第五條　土地ノ丈量ハ曲尺ヲ用ヒ六尺ヲ間ト爲シ方壹間ヲ以テ歩ト爲シ三十歩ヲ畝ト爲シ十畝ヲ段ト爲シ十段ヲ町ト爲ス但市街宅地ハ方壹間ヲ以テ坪ト爲シ坪ノ十分一ヲ合ト爲シ合ノ十分一ヲ勺ト爲ス

第六條　地價ヲ定メ又ハ地價ヲ修正スルトキハ地盤ヲ丈量ス（二十二年第三十號ニテ改正）

第七條　地價ハ地目變換開墾又ハ第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルトキニアラサレハ之ヲ修正セス（二十二年第三十號ニテ改正）

第八條　一般ニ地價ノ改正ヲ要スルトキハ前以テ其旨ヲ布告スヘシ

第九條　地價ハ其地ノ品位等級ヲ詮定シ其所得ヲ審査シ尙ホ其土地ノ情況ニ應シ之ヲ定ム

第十條　地目ヲ變換シ若クハ第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルトキハ地方廳ヘ屆出ツヘシ　地目變換ノ土地ハ五年以內ニ於テ地價ヲ修正シ六年目ヨリ修正地價ニヨリ地租ヲ徵收ス　但シ第十六條第六項ノ場合ハ此限ニアラス　第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルモノハ五年間其地價ヲ据置六年目ニ至リ之ヲ修正ス（二十二年第三十號ニテ改正）

第十一條　免租地ヲ有租地ト爲サントスルトキハ地方廳ノ許可ヲ受クヘシ地價ハ其地ノ現況ニ依リ之ヲ定ム

第十二條　地租ハ土地臺帳記名者ヨリ徵收ス但シ質入ノ土地ハ其質取主ニ於テ之ヲ收ムヘシ（廿二年第三十號ニテ改正）

第十三條　第一項左ノ如ク改ム　有租地ヲ公立學校地、鄕村社地、墳墓地、禁伐林ト爲ストキハ其地租ハ許可又ハ命令ヲ受ケタル月分ヨリ月割ヲ以テ之ヲ免シ用惡水路、溜池、隄塘、井溝、鐵道用地及公衆ノ用ニ供スル道路トナスキハ其地租ハ工事着手ノ月分ヨリ月割ヲ以テ之ヲ免ス

第十四條　地價修正ノ土地ハ其年ヨリ修正地價ニヨリ地租ヲ徵收ス但第十條第二項ノ場合ハ此ノ限ニアラス（二十二年第三十號ニテ改正）

第十五條　荒地又ハ新開地ハ免租年期間ノ翌年分ヨリ地租ヲ徵收ス（二十二年第三十號ニテ改正）

第十六條　開墾ヲナサントスルキハ地方廳ニ屆出ヘシ前項ノ開墾地ハ開墾着手ノ年ヨリ十年目ニ其ノ成功ノ部分ニ對シ地價ヲ修正ス　十年以內ニ成功シ能ハサル開墾ヲナサントスルキハ地方廳ニ願出テ鍬下年期ノ許可ヲ受クヘシ鍬下年期ハ三十年以內トス但シ年期中ハ原地價ニヨリ地租ヲ徵收ス　官有地ヲ開墾シテ民有地ニ歸セシ土地ハ其ノ素地相當ト認ムル處ノ地價ヲ定メ尙ホ十年以內ノ鍬下年期ヲ許可ス但年期中ハ原定地價ニ依リ地租ヲ徵收ス　官有ノ水面ヲ埋立民有ニ歸セシ土地ハ五十年以內ノ新開免租年期ヲ許可ス　耕地ノ區畫若クハ形狀ヲ變更スル爲メ又ハ地目ヲ變換スル爲メ開墾ニ等シキ勞費ヲ要スル者ハ本條第三項ニ準シ三十年以內ノ地價據置年期ヲ許可スルヿアルヘシ（二十二年第三十號ニテ改正）

第十七條　削除

第十八條　第十六條第三項第四項第五項ノ年期明ニ至リ事業成功ニ至ラサル者ハ更ニ二十年以內ノ繼年期ヲ許可ス（二十二年第三十號ニテ改正）

第十九條　鍬下年期地價據置年期明新開免租年期明ノキ其ノ地價ヲ定メ又ハ修正ス（二十二年第三十號ニテ改正）

第二十條　荒地ハ其年ヨリ十五年以內免租年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス海嘯ノ爲メ潮水浸入シ作土ヲ損害シタルモノハ其狀況ニヨリ前項ニ準據スルヿアルヘシ（二十二年第三十號ニテ改正）

第廿一條　荒地免租年期明ニ至リ其地ノ現況原地價ニ復シ難キモノハ十五年以內七割以下ノ低價年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス（二十二年第三十號ニテ改正）

第廿二條　低價年期明ニ至リ尙ホ原地價ニ復シ難キモノ及荒地免租年期明ニ至リ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變スル者ハ其地ノ現況ニヨリ地價ヲ定ム（二十二年第三十號ニテ改正）

第廿三條　免租年期明ニ至リ尙ホ荒地ノ形狀ヲ存スルモノハ更ニ十五年以內免租繼年期ヲ定ム其ノ年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キモノハ第廿一條第廿二條ニヨリ處分ス（二十二年第三十號ニテ改正）

第廿四條　川成海成湖水成ニシテ免租年期明ニ至リ原形ニ復シ難キモノハ更ニ廿年以內免租繼年期ヲ許可ス其ノ年期明ニ至リ尙ホ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變セサルモノハ川海湖ニ歸スルモノトス（二十二年第三十號ニテ改正）

第廿五條　土地ヲ欺隱シ地租ヲ逋脫スルモノハ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ニ處シ現地目ニ依リ地價ヲ定メ欺隱年間ノ地租ヲ追徵ス但シ發覺ノ日ヨリ三年以前ニ溯ルコトヲ得ス（廿二年第三十號ニテ但書追加ス）

第廿六條　第十條ニ違犯スルモノハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ且ツ現地目ニヨリ地價ヲ定メ其ノ地租ヲ徵收ス但シ發覺ノ日ヨリ三年以前ニ溯ルヿヲ得ス（二十二年第三十號ニテ改正）

第廿七條　第十條第一項第十六條第一項ニ違犯スルモノハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス其ノ開墾ノ屆出ヲナサヽルモノハ現地目ニヨリ地價ヲ定メ其ノ地租額ヲ追徵ス但シ發覺ノ日ヨリ三年以前ニ溯ルヿヲ得ス（明治二十二年法律第三十號ニテ改正ス）

第廿八條　第廿五條以下ノ處犯借地人小作人ノ所爲ニ係リ所有主其情ヲ知ラサルキハ其借地人小作人ヲ罰シ地租ハ所有主ヨリ追徵ス

第廿九條　第廿五條第廿六條第廿七條第廿八條ノ刑ニ當ル者自首スルキハ其罰金科料ヲ免ス但其追徵スヘキ地租ハ仍ホ之ヲ納メシム

○

◉法律第十號 明治二十二年三月十五日

藥品營業并ニ藥品取扱規則

第一章　藥劑師

第一條　藥劑師トハ藥局ヲ開設シ醫師ノ處方箋ニヨリ藥劑ヲ調合スルモノヲ云フ藥劑師ハ藥品ノ製造及ヒ販賣ヲナスヿヲ得

第二條　藥劑師ハ其ノ學術試驗ヲ受ケ年齡滿廿年以上ニシテ內務大臣ヨリ藥劑師免狀ヲ得タルモノニ限ル

第三條　藥劑師免狀ヲ得ントスルモノハ試撿及第証書ヲ以テ地方廳ヲ經由シ內務省ニ願出ツヘシ

第四條　藥劑師免狀ヲ得ルモノハ免狀下付ノ節手數料三圓ヲ納ムヘシ

第五條　藥劑師免狀ヲ得タルモノハ氏名原籍ハ內務省ノ藥劑師名簿ニ登錄シ之ヲ公告スヘシ

第六條　藥劑師免狀ヲ毀損亡失シ又ハ氏名本籍ヲ變換スル等免狀面ニ異動ヲ生シタル時ハ其ノ事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シ免狀書換ヲ內務省ニ願出ヘシ

第七條　書換ノ免狀ヲ得ルモノハ免狀下付ノ節手數料金壹圓ヲ納ムヘシ

第八條　藥劑師廢業又ハ死亡シタル時ハ十日以內ニ地方廳ニ屆ケ出ツヘシ

第九條　藥劑師ニアラサレハ藥局ヲ開設スルヿヲ得ス

第十條　藥劑師藥局ヲ開設シ又ハ閉鎖シタル時ハ十日以內ニ地方廳ニ屆ケ出ツヘシ

第十一條　藥劑師一人ニシテ二ケ所以上ノ藥局ヲ開設スルヿヲ得ス但シ支局ヲ設クル時ハ別ニ藥劑師ヲ置キ之ヲ管理セシムヘシ

第十二條　藥局ニハ日本藥局方第一表ノ藥品ヲ備フヘシ

第十三條　藥局ニ備付ノ秤量器ハ最モ精確ナルヲ要シ權衡ハ少クモ二サンチグラムヲ定量シ得ルモノヲ備フヘシ

第十四條　藥劑師ハ患者ノ氏名年齡藥名分量用法用量處方ノ年月日及ヒ醫師ノ氏名ヲ自記シ又ハ調印シタル處方箋ニヨリ調劑シ得ヘキモノトス但處方箋中疑シキ廉アル時ハ其ノ醫師ニ質シ證明書ヲ得ルニアラサレハ調劑スルヿヲ得ス藥劑師ハ調劑錄ヲ備ヘ處方箋ヲ謄寫シ置クヘシ

第十五條　處方箋ヲ受ケタル時ハ晝夜ヲ問ハス何時ニテモ調劑スヘキモノトス　正當ノ事故ナクシテ之ヲ拒ムヿヲ得ス

第十六條　處方箋中ノ藥品ニ缺乏アル時ハ其ノ醫師ニ通知シテ指揮ヲ乞フヘシ藥劑師隨意ニ之ヲ省畧シ又ハ他藥ヲ代用スルヿヲ得ス

第十七條　毒藥劇藥ノ處方箋ハ藥劑師撿印ヲ處方箋ノ日付ヨリ滿十年間之ヲ保存スヘシ

第十八條　毒藥劇藥ハ一回使用セシ處方箋ニヨリ再ヒ調劑スルヿヲ得ス但特ニ醫師ノ通知アルモノハ此ノ限ニアラス

第十九條　患者ニ與フル藥劑之容器又ハ包紙ニハ處方箋ニヨリ內外用ノ別用法用量年月日患者ノ氏名藥局ノ地名及ヒ藥劑師ノ氏名ヲ記スヘシ

第二章　藥種商

第二十條　藥種商トハ藥品ノ販賣ヲナスモノヲ云フ

第廿一條　藥種商ハ地方廳ノ免許鑑札ヲ受クヘシ

第廿二條　毒藥劇藥ハ衛生試驗所又ハ藥劑師製藥者ニ於テ封鍼シタル容器ヲ開キテ零賣スルヿヲ得ス

第三章　製藥者

第廿三條　製藥者トハ單ニ藥劑ヲ製造シ自製ノ藥品ヲ販賣スルモノヲ云フ

第廿四條　製藥者ハ地方廳ノ免許鑑札ヲ受クヘシ

第廿五條　毒藥劇藥ハ適當ノ容器ニ納メ之ヲ封緘スヘシ其ノ用器ヲ開キテ零賣スルヿヲ得ス

第四章　藥品取扱

第廿六條　日本藥局方ニ記載スル所ノ藥品ハ其性狀品質該局方ノ處定ニ適合スルモノニアラサレハ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

第廿七條　日本藥局方ニ記載セサル藥品ハ其ノ據ル處ノ外國藥局方名ヲ記スヘシ其ノ性狀品質該局方ノ處定ニ適合シタルモノニ非サレハ販賣若クハ授與スルヿヲ得ス何レノ藥局方ニモ記載セサル新規ノ藥品ハ衛生試驗所ノ檢査ヲ經其ノ試驗成蹟ヲ記スルモノニアラサレハ販賣若クハ授與スルヿヲ得ス

第廿八條　藥局方中特ニ貯藏法ヲ示シタルモノハ其ノ所定ニ從フヘシ

第廿九條　毒藥劇藥ハ他ノ藥品ト區別シ毒藥ハ鎖鑰ヲ備ヘタル場所ニ貯藏スヘシ

第三十條　毒藥劇藥ハ職業上必要ト認メタルヨリ其ノ藥名量數使用ノ目的年月日及ヒ住所氏名職業ヲ記シ且ツ捺印シタル證書ヲ差出スニアラサレハ之ヲ販賣若クハ授與スルヿヲ得ス前項ノ証書ハ其ノ日付ヨリ滿十年間之ヲ保存スヘシ

第卅一條　毒藥劇藥ハ前條ニ記載シタル証書アルモ幼稚ノモノ其他不安心ト認ムルモノニハ交付スヘカラス

第卅二條　毒藥劇藥ハ藥品ノ容器又ハ包紙ニ其名稱及販賣授與者ノ住所氏名ヲ記シ毒藥ハ毒字劇藥ハ劇字ヲ付記スヘシ

第卅三條　藥劑師ニ於テ醫師ノ處方箋ニヨリ患者ニ與フル藥劑ハ第卅條及第卅二條ノ手續ヲナス

ヲ要セス

第卅四條　藥劑師藥種商製藥者ノ間ニ於テハ第卅條及第卅二條ニ記載シタル手續ヲ要セス其ノ藥劑師藥種商製藥者タルノ證明書ヲ以テ毒藥劇藥ヲ賣買スルヿヲ得

第卅五條　毒藥劇藥ノ品目ハ內務省令ヲ以テ之ヲ定ム

第卅六條　藥品ノ用器又ハ包紙ニハ假名又ハ漢字ヲ以テ其ノ藥名ヲ記スヘシ但シ羅甸語又ハ他ノ外國語ト併記スルハ妨ケナシ

第卅七條　藥品ノ用器又ハ包紙ニハ製造者ノ住所氏名ヲ記スヘシ其ノ外國製ニカヽルモノハ引取人ノ住所氏名ヲ記スヘシ但藥品製造會社ニアッテハ其ノ所在地名及ヒ會社名ヲ記スモ妨ケナシ

第卅八條　內務大臣ハ監視員ヲシテ藥局及ヒ藥品ヲ販賣又ハ製造スル場所ヲ巡視セシムルヿアルヘシ監視員ハ巡視ノ際其ノ證票ヲ携帶スヘシ

第五章　罰則

第卅九條　官許ヲ得スシテ藥劑師ノ業ヲ爲シタルモノ又ハ第十六條第十八條第廿二條第廿五條第廿六條第廿七條第卅條第一項ニ違背シタルモノハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條　第十一條第十四條第一項第十七條第十九條第廿九條第卅條第二項第卅一條第卅二條ニ違背シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條　第六條第八條第十條第十二條第十三條第十四條第十五條第廿一條第二十四條第廿八條第卅六條第卅七條ニ違背シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四十二條　內務大臣ハ此ノ規則施行ノ責ニ任シ之カ爲メ必用ナル命令及訓令ヲ發布スヘシ但藥種商製藥者取締ニ係ル細則ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ムヘシ

附則

第四十三條　醫師ハ自ラ治療スル患者ノ處方ニ限リ第廿六條第廿七條第廿九條ニ從ヒ自宅ニ於テ藥劑ヲ調合シ販賣授與スルヿヲ得此ノ場合ニ於テハ第三十八條ノ監視ヲ受クヘシ醫師ハ第卅四條ニ從ヒ醫師タルノ證明書ヲ以テ藥劑師藥種商製藥者ヨリ毒藥劇藥ヲ買取ルヿヲ得

第四十四條　此規則施行以前ニ於テ內務省ヨリ藥舗開業免狀ヲ受ケタルモノハ藥劑師タルノ効ヲ有ス

第四十五條　阿片賣買ニ關スル事項ハ明治十一年八月第廿一號布告ニ據ル

◉法律第二十號明治二十二年七月三十日

特別輸出港規則

第一條　帝國臣民米麥粉石炭硫黃ノ五品ヲ海外ニ輸出スル爲メ左ノ諸港ヲ特別輸出港トス

一伊勢國四日市　一長門國下ノ關
一筑前國博多　一肥前國門司
一肥前國口ノ津　一肥前國唐津
一肥後國三角　一越中國伏木
一後志國小樽

第二條　前條輸出事業ニ使用スル爲メ外國船ヲ雇入ソトスルトキハ大藏大臣ヘ出願シ外國船雇入免狀ヲ受クヘシ

第三條　特別輸出港ニ於テ船舶ノ出入及ヒ輸出品ノ船積ニ關スル事項ハ總テ外國貿易ノ手續ニヨルヘシ

第四條　第一條ノ輸出事業ニ使用スル船舶ハ其使用中沿海貿易ヲナスヿヲ得ズ犯ス者ハ五百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ雇入外國船ニアツテハ尙ホ第二條ノ免狀ヲ取上クヘシ

第五條　本規則ヲ廢止シ又ハ改正スルトキハ六ケ月前ニ公布スヘシ

第六條　本規則施行ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第七條　特別輸出諸港ニ於テ本規則施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

◉議會幷ニ議員保護規則明治二十二年十一月七日法律第二十八號

第一條　法律ヲ以テ組織シタル議會ニ對シ公然誹毀侮辱シタル者ハ二月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス但シ議會ノ告訴ヲ待テ其ノ罰ヲ論ス

第二條　前條議會ノ議員ニ對シ其ノ公務上ノ言論行爲ニ就キ公然誹毀侮辱シタル者亦タハ議員ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三條　議員其公務ヲ行フニ當リ暴行脅迫ヲ以テ其ノ言論行爲ヲ妨害シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四條　議員ノ職ヲ辭セシムルノ目的又ハ其ノ公務上ノ言論行爲ヲ妨害セントスル目的ヲ以テ議員ヲ脅迫シ又ハ恐喝シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上廿圓以下ノ罰金ヲ附加ス但シ被害者ノ告訴ヲ待テ其ノ罰ヲ論ス

第五條　第二條第三條ノ罰ヲ犯シ因テ議員ヲ創傷シタル者ハ刑法毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

◉法律第三十四號明治二十三年十二月廿八日

第一條　決鬪ヲ挑ミタル者又ハ其挑ミニ應シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二條　決鬪ヲ行ヒタル者ハ二年已上五年已下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三條　決鬪ニ依リテ人ヲ殺傷シタル者ハ刑法ノ各本條ニ照シ處斷ス

第四條　決鬪ノ立會ヲ爲シ又ハ立會ヲ爲ス事ヲ約シタル者ハ証人介添人等何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス情ヲ知テ決鬪ノ場所ヲ貸與シ又ハ供用セシメタル者ハ罰前項ニ同シ

第五條　決鬪ノ挑ニ應セサルノ故ヲ以テ人ヲ誹譏シタル者ハ刑法ニ照シ誹譏ノ罪ヲ以テ論ス

第六條　前數條ニ記載シタル犯罪ハ刑法ニ照シ其重キ者ハ重キニ從フテ處斷ス

㊟法律第六號明治二十二年二月廿六日

朕府縣會議員撰擧規則ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

府縣會議員撰擧規則

第一條　戸長ハ毎年九月十五日ヲ期トシ其役場管内ノ撰擧人名原簿ヲ調査シ其副本ヲ十月一日迄ニ郡長ニ差出スヘシ　撰擧人名原簿ニハ撰擧人ノ氏名、住所、生年月、納ムル所ノ地租ノ總額並ニ其納稅地ヲ記載スヘシ

第二條　郡長ハ戸長ヨリ差出ス所ノ原簿ヲ調査シ毎年十月十五日ヲ期トシ其役所管内ノ撰擧人名簿ヲ調製スヘシ

第三條　區長ハ毎年九月十五日ヲ期トシ其役所管内ノ撰擧人名原簿ヲ調製シ十月十五日ヲ期トシ撰擧人名簿ヲ調製スヘシ　撰擧人名原簿ニ記載スヘキ事項ハ第一條第二項ニ同シ

第四條　府縣會規則第十三條ノ年齡及ヒ年限ヲ算スルハ撰擧人名簿調製ノ期日ヲ以テ限界ト爲シ其地租納額ヲ算スルハ原簿調製ノ期日ヨリ前一年以上之ヲ納メ猶引續キ納ムル者ニ限ルヘシ但家督ニ依リ財産ヲ相續シタル者ハ前財産主ノ納稅額ヲ以テ其者ノ納稅額ニ算入スヘシ

第五條　撰擧人其住居スル區町村ノ外ニ於テ地租ヲ納ムルトキハ其納稅地區戸長ノ證狀ヲ添ヘ撰擧人名原簿調製ノ期日迄ニ其住居地ノ區戸長ニ屆出ヘシ　前項ノ屆出ヲ爲サヽル納稅額ハ撰擧及ヒ被撰擧ノ資格ニ算入スルコトヲ得ス

第六條　郡區長ハ十月二十日ヨリ十五日間其役所管内ノ撰擧人名原簿及ヒ撰擧人名簿ノ寫ヲ其郡區役所ニ於テ縱覽セシムヘシ但關係者ノ請求アルトキハ戸長役場ニ於テモ其調製シタル原簿ノ寫ヲ示スヘシ

第七條　撰擧資格アル者撰擧人名簿ニ於テ脫漏又ハ誤載アルコトヲ發見シタルトキハ其縱覽期限内ニ之ヲ郡區長ニ申立ヘシ

第八條　郡區長ニ於テ脫漏又ハ誤載ノ申立ヲ受ケタルトキハ十日以内ニ之ヲ審査判定シ其申立正當ナルトキハ直ニ其人名ヲ記入又ハ削除シ其由ヲ管内ニ告示スヘシ但郡ニ在テハ仍ホ當人住居地ノ戸長ニ通知スヘシ

第九條　前條審査ノ爲メ必要アル場合ニ於テハ申立人又ハ當人ヲ召喚審問スルコトヲ得

第十條　申立人又ハ當人ニ於テ郡區長ノ判定ニ不服アルトキハ判定ノ日ヨリ七日以内ニ始審裁判所ニ出訴スルコトヲ得但其判定ハ出訴ノ爲メ停止セサルモノトス

第十一條　始審裁判所ニ於テ前條ノ訴訟ヲ受取リタルトキハ他ノ訴訟ノ順序ニ拘ハラス速ニ其裁判ヲ爲スヘシ

第十二條　前條始審裁判所ノ裁判ハ上告スルコトヲ得ト雖モ控訴スルコトヲ許サス但其裁判ハ上告ノ爲メ停止セサルモノトス

第十三條　撰擧人名簿ハ十一月十五日ヲ以テ確定期限トシ次年ノ改正期日迄之ヲ据置クモノトス但裁判言渡ニ依リ訂正スヘキモノハ郡區長ニ於テ其言渡ヲ受ケタルトキヨリ二十四時間以内ニ之ヲ訂正シ其由ヲ管内ニ告示スヘシ但郡ニ在テハ仍ホ當人住居地ノ戸長ニ通知スヘシ　前項ノ

外次年ノ改正期日前ト雖モ撰擧ヲ行フ前ニ於テ撰擧權ヲ失ヒ若クハ撰擧權ヲ有セサリシコトヲ發見シタル場合ニ於テハ郡區長ハ其人名ヲ削除スヘシ　毎年確定ノ撰擧人名簿ハ臨時ノ補缺撰擧ニモ之ヲ使用スルモノトス

第十四條　撰擧投票ハ通常二月若クハ三月ニ於テ之ヲ行フヘシ但解散及ヒ補闕撰擧ノ場合ハ此限ニ在ラス　前項ノ時期ハ府縣ノ情況ニ依リ府縣知事ニ於テ府縣會ノ議決ヲ取リ内務大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ變更スルコトヲ得

第十五條　議員ヲ撰擧スヘキトキハ少クトモ一箇月前ニ府縣知事ヨリ其月日、撰擧開會並ニ投票函閉鎖ノ時刻撰擧ヲ行フヘキ郡區ノ名及ヒ撰擧スヘキ議員ノ數ヲ記シ之ヲ管内ニ告示スヘシ若シ正議員ノ外補闕員ノ增撰ヲ要スルトキハ各別ニ其數ヲ記スヘシ　撰擧開會ヨリ投票函閉鎖迄ノ時間ハ四時間以上十時間以内タルヘシ

第十六條　前條ノ告示アリタルトキハ郡區長ハ前條各事項並ニ撰擧開會ノ場所ヲ管内ニ告示スヘシ

第十七條　郡區長ハ其管内ノ撰擧人中ヨリ立會人五名ヲ定メ遲クトモ選擧ノ期日ヨリ五日以前ニ之ヲ本人ニ通知シ撰擧ノ當日撰擧會場ニ參會セシムヘシ　撰擧分會ヲ設ケタル場合ニ於テハ本會分會トモ各其會場所屬ノ撰擧人ニ就キ前項ニ依リ立會人ヲ定ムヘシ　立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其職ヲ辭スルヿヲ得ス立會人若シ撰擧開會ノ時刻ニ至リ出頭セサルトキハ參會ノ撰擧人中最多額ノ地租ヲ納ムル者ヲ以テ假ニ其闕ヲ補フヘシ

第十八條　郡區長ハ撰擧會長トナリ撰擧會場ヲ管理スヘシ郡區長事故アルトキハ代理書記ヲ以テ之ニ充ツヘシ　撰擧會書記ハ郡區長ニ於テ郡區書記中ヨリ之ヲ命スヘシ

第十九條　撰擧人ハ撰擧開會ノ時刻ヨリ投票函閉鎖ノ時刻ニ至ル迄何時タリトモ到着ノ順序ニ從ヒ投票スルコトヲ得

第二十條　撰擧會場ニハ錠ヲ付シタル投票函及ヒ撰擧錄並ニ筆墨ヲ備ヘ置クヘシ投票函ハ投票ニ先チ參集シタル撰擧人ノ面前ニ於テ之ヲ開キ其空虛ナルコトヲ示スヘシ

第二十一條　投票用紙ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依リ各郡區ニ於テ一定ノ式ヲ用ヒ投票ノ當日撰擧會場ニ備ヘ置キ撰擧會長又ハ書記ヨリ之ヲ各撰擧人ニ交付スヘシ　用紙ハ正議員ノ外補闕員ノ增撰ヲ要スル場合ニ於テハ之ヲ甲乙二種ニ分チ甲種ハ正議員ノ爲メノ用紙ト爲シ乙種ハ補闕員ノ爲メノ用紙ト爲スヘシ

第二十二條　撰擧人ハ自ラ投票ヲ行フヘシ代人ニ託スルコトヲ得ス

第二十三條　撰擧人ハ撰擧會場ニ於テ投票用紙ニ被撰擧人並ニ自己ノ氏名ヲ記シ捺印スヘシ但氏名ノ外住所若クハ位階勳等其他敬稱ノ類ヲ記スルハ妨ナシ

第二十四條　撰擧人投票ヲ爲サントスルトキハ撰擧會長ハ其住所氏名ヲ撰擧人名簿ニ照シ名簿ニ消印ヲ捺シ撰擧人ヲシテ自ラ之ヲ投票函ニ投入セシムヘシ

第二十五條　撰擧人ニシテ文字ヲ書スルコト能ハサル由ヲ申立ルトキハ撰擧會長ハ書記ヲシテ代書セシメ之ヲ本人ニ讀聞セ並ニ立會人ニ示シタル後捺印投票セシムヘシ

第二十六條　撰擧ニ關スル吏員及ヒ撰擧人ノ外何人タリトモ撰擧會場ニ入ルコトヲ得ス但會場臨視ノ職權アル官吏ハ此限ニ在ラス

第二十七條　撰擧人名簿ニ記載セラレタル者ノ外投票スルコトヲ得ス但記載セラルヘキ裁判言渡書ヲ所持シテ參會スル者ハ此限ニ在ラス

第二十八條　撰擧人ハ會場ニ於テ演說討論ヲ爲シ若クハ喧噪ニ渉リ又ハ互ニ投票ヲ勸誘スルコトヲ得ス

第二十九條　撰擧會場ニ於テ秩序ヲ紊ル者アルトキハ撰擧會長ハ之ヲ警戒シ其命ニ從ハサルトキ

ハ之ヲ會場外ニ退出セシムヘシ但其投票ヲ爲サシムル爲メ再ヒ之ヲ呼入ルヽコトヲ得　撰擧會長ハ會場取締ノ爲メ必要ト認ムルトキハ警察官ノ助力ヲ求ムルコトヲ得

第三十條　撰擧權ナク又ハ他人ノ氏名ヲ詐稱シテ投票セントスル者アルトキハ撰擧會長ハ其投票ヲ取上クヘシ

第三十一條　投票函閉鎖ノ時刻ニ至ルトキハ撰擧會長ハ其由ヲ宣告シ書記ヲシテ一時撰擧會場ノ入口ヲ閉サシメ參會者ニ問フニ未タ投票セサリシ者ナキヤヲ以テシ若シ之アルニ於テハ直ニ投票セシメタル後投票函ヲ閉鎖スヘシ

第三十二條　撰擧會場ニハ點數簿二冊ヲ備ヘ書記二人ヲシテ各一冊ヲ擔任セシムヘシ

第三十三條　投票函閉鎖後十分時間ヲ經過スレハ撰擧會長ハ立會人ノ面前ニ於テ投票函ヲ開キ逐次投票ヲ取出シ披封點檢シテ之ヲ書記ニ付シ撰擧人被撰擧人ノ氏名ヲ朗讀セシメ點數簿擔任ノ書記ヲシテ被撰擧人ノ得點ヲ點數簿ニ記入セシムヘシ　前項ノ點檢中若シ無効ノ投票ヲ發見シタルトキハ之ニ抹線ヲ加ヘ一部分無効ノモノハ其部分ニ抹線ヲ加フヘシ

第三十四條　撰擧人ハ投票點檢ノ際之ヲ參觀スルコトヲ得

第三十五條　投票點數ノ記入ヲ終リタルトキハ撰擧會長ハ書記ヲシテ各被撰擧人得點ノ合計ヲ點數簿ニ記入シテ之ヲ朗讀セシムヘシ

第三十六條　點數記入並ニ計算其他書記ノ事務ハ總テ撰擧會長並ニ立會人ノ面前ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第三十七條　點數ノ合計ヲ記入シ終リタルトキハ撰擧會長ハ立會人ノ面前ニ於テ多數ヲ得タルモノヨリ順次ニ其被撰擧權ノ有無ヲ査定シ同數ハ年長ヲ取リ同年ハ抽籤ヲ用ヒ其當撰ヲ定ムヘシ但卽時ニ其當撰ニ必要ナル事實ヲ確知シ得サルトキハ調査ニ必要ナル時日ノ間其査定ヲ延ハスヿヲ得　分會ヲ設ケタル場合ニ於テハ第五十條ニ依リ當撰ヲ定ムル者トス　當撰タルヘキ多數ヲ得タル者ノ被撰擧權ヲ有セサルコトヲ發見シタルトキハ順次其次点者ヲ以テ當撰ト爲スヘシ

此場合ニ於テハ郡區長ハ當撰者ノ氏名ト共ニ其事由ヲ告示スヘシ　當撰タルヘキ多數ヲ得タル被撰擧人他郡區ノ人ニシテ直ニ其當撰ヲ定メ難キトキハ第四十一條ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第三十八條　点檢簿ノ投票ハ之ヲ取纏メ封緘ノ上撰擧會長並ニ立會人ノ面前ニ於テ之ヲ爲ス　ノ投票ハ封印ノ儘附屬書類ト共ニ一年間郡區役所ニ保存スヘシ若シ撰擧ニ關シ訴訟又ハ告訴告發アルトキハ一年ヲ過グルモ其裁判確定ニ至ルマテ之ヲ保存スヘシ

第三十九條　左ノ事項ハ之ヲ撰擧錄中ニ記入スヘシ

一　撰擧開會ノ月日並ニ時刻
二　撰擧會長及ヒ書記ノ氏名
三　立會人ノ住所氏名
四　第二十七條但書ニ依リ投票セシメタルトキハ其顚末
五　第三十條ノ處分ヲ爲シタルトキハ其顚末
六　投票函閉鎖ノ時刻
七　各被撰擧人ノ得点數
八　當撰人々住所氏名若シ直ニ當撰ヲ定メ難キトキハ其事由
九　撰擧閉會ノ時刻
十　右ノ外撰擧會長ニ於テ緊要ト認ムル事項

當撰ノ査定ヲ延シタルトキハ其結果ヲ追記スヘシ

第四十條　撰擧錄ニハ撰擧會長立會人並ニ書記之ニ署名捺印スヘシ

第四十一條　當撰タルヘキ多數ヲ得タル被撰擧人他郡區ノ人ナルトキハ郡區長ハ其本籍地ノ郡區長ニ照會シ被撰擧權ヲ有スルヤ否ヤノ證明ヲ求ムヘシ若シ其權ヲ有セサルトキハ第三十七條第三項ノ例ニ依ル

第四十二條　左ノ投票ハ無効トス

一　撰擧人名簿ニ記載ナキ者ノ投票但裁判言渡書ヲ所持シタルニ依リ投票シタル者ハ此限ニ在ラス

二　成規ノ用紙ヲ用ヒサルモノ

三　撰擧人又ハ被撰擧人ノ氏名ヲ記載セサルモノ

四　撰擧人ノ氏名ノ讀ミ難キモノ又ハ何人タルヲ知ルヘカラサルモノ

五　撰擧人被撰擧人ノ住所氏名ノ外餘事ヲ記入スルモノ但位階勳等其他敬稱ノ類ヲ記入スルモノハ餘事ト見做スノ限ニ在ラス

六　被撰擧人ノ氏名ノ讀ミ難キモノ又ハ其何人タルヲ知ルヘカラサルモノ但列記ノ被撰擧人ニ付テハ仍ホ其効アリトス

七　被撰擧權ナキ者ヲ記載シタルモノ但列記ノ被撰擧人ニ付テハ仍ホ其効アリトス

第四十三條　投票ニ記載ノ被撰擧人其撰擧スヘキ定數ニ足ラサルモノ之ヲ無効トセス又定數ニ過クルトキハ前條第六第七ニ觸ルヽモノアルト否トヲ問ハス末尾ヨリ其過數ヲ順次ニ棄却スヘシ

一人ノ氏名ヲ複記シタルモノハ一人トシテ計算スヘシ

第四十四條　撰擧人又ハ被撰擧人ノ住所氏名ニ誤字脫字アリ又ハ假名字ヲ用フルモ其何人ノ何人ヲ撰擧シタルコト明瞭ナルトキハ其投票ヲ有効トスヘシ

第四十五條　投票効力ノ有無ニ付疑義アルトキハ立會人ノ意見ヲ聞キ撰擧會長之ヲ決定スヘシ其

決定ニ對シテハ撰擧會場ニ於テ異議ヲ申立ルコトヲ得ス

第四十六條　郡區ノ區域廣濶ニ過クルカ又ハ郡區內島嶼ノ地アリテ撰擧人ノ參會ニ不便ナル爲メ已ムヲ得サル場合ニ於テハ郡區長ハ府縣知事ノ指揮ニ依リ又ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ撰擧分會ヲ設クルコトヲ得　分會ノ爲メ特ニ撰擧人名簿ヲ調製スルヲ要セスト雖モ撰擧人名簿中ニ各撰擧人所屬ノ會場ヲ區別シ豫メ分會場所屬ノ區域竝ニ會場ヲ管內ニ告示スヘシ

第四十七條　分會ハ本會ト同日時ニ之ヲ開キ投票時間モ亦本會ト同一タルヘシ其他撰擧ノ手續會場ノ取締撰擧錄ノ記載等ハ總テ本會ニ準スヘシ但島嶼其他遠隔ノ地ニ限リ府縣知事ニ於テ適宜ノ處置ヲ爲シ撰擧本會ノ投票期日迄ニ其投票函ヲ送致セシムルコトヲ得

第四十八條　分會撰擧會長ハ上席郡區書記ヲ以テ之ニ充ツヘシ　分會書記ハ郡區長ニ於テ其郡區書記又ハ其地ノ戶長又ハ戶長役場吏員中ヨリ之ヲ命スヘシ

第四十九條　分會ニ於テ投票函ヲ閉鎖シタルトキハ之ニ封印シ撰擧會長及ヒ書記ノ中少クトモ一名付添直ニ本會場ニ送付スヘシ若シ立會人又ハ他ノ撰擧人中同行ヲ望ム者アルトキハ之ヲ許スヘシ

第五十條　分會ヲ設ケタルトキハ本會場ニ於テハ投票函閉鎖ノ後分會投票函ノ到着ヲ待チ第三十三條ノ手續ヲ爲シ合算ノ上總數ヲ以テ當撰ヲ定ムヘシ

第五十一條　當撰者ノ定マリタルトキハ郡區長ハ直ニ其旨ヲ當撰者ニ通知スヘシ　當撰者當撰ノ通知ヲ受ケタルトキハ五日以內ニ當撰承諾ノ屆出ヲ爲スヘシ若シ當撰ノ通知ヲ爲シタル日ヨリ十日以內ニ承諾ノ屆出ヲ爲サヽルトキハ當撰ヲ辭シタルモノト見做スヘシ　當撰ヲ辭シタル者アルトキハ郡區長ハ次點者ヲ以テ當撰者ト爲スヘシ

第五十二條　撰擧ノ結果ハ郡區長ヨリ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第五十三條　當撰者ノ住所氏名ハ府縣知事ニ於テ之ヲ管內ニ告示スヘシ

第五十四條　府縣會規則第十條第二項ニ依リ補闕員ヲ增撰スルトキハ其擧撰ハ正議員撰擧ト同會ニ於テ同時ニ之ヲ行フ但其投票函ハ正議員ノ投票函ト異ニスヘシ

第五十五條　一人ニシテ正議員補闕員ノ撰ニ併セ當ルトキハ之ヲ正議員ト爲シ其次點者ヲ以テ補闕員ト爲スヘシ

第五十六條　當撰ノ査定ニ不服アル關係者ハ當撰者ノ氏名告示ヨリ十日以內ニ府縣知事ニ其更正又ハ撰擧取消ノ申立ヲ爲スコトヲ得府縣知事ノ判定ニ服セサル者ハ二十日以內ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得但其判決ハ終審トス

第五十七條　當撰者確定ノ後其當撰者ノ被撰擧權ヲ有セサリシコトヲ發見スルトキハ府縣知事ハ其當撰ヲ取消シ其次點者ヲ以テ當撰ト爲スヘシ但此場合ニ於テハ其事由ヲ管內ニ告示スヘシ

第五十八條　撰擧全會ヲ取消シ更ニ撰擧ヲ命スルハ其撰擧ノ撰擧規定ニ違フ場合ニ限ル但規定ニ違フ所アルモ其事ノ輕微ニシテ撰擧ノ結果ニ異動ヲ生セス又ハ其事ノ更正シ得ヘキ者ハ取消ノ限ニ在ラス　撰擧全會ノ取消ハ府縣知事ヨリ內務大臣ニ具狀シ其認可ヲ經テ之ヲ爲スヘシ但其事由ヲ管內ニ告示スヘシ

第五十九條　納稅額年齡其他撰擧資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シ撰擧人名簿ニ記載セラレタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス其被撰擧資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シテ當撰者ト爲リタル者又ハ其資格ヲ有セサルモ其事ヲ告ケスシテ當撰者ト爲リタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十條　投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲メニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スル目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品ヲ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス其授與又ハ約束ヲ受ケタル者モ亦同シ　直接又ハ間接ニ金錢物品ヲ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シテ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲メニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ刑法第二百三十四條ノ例ヲ以テ論ス其授與又ハ約束ヲ受ケテ投票ヲ爲シ又ハ投票ヲ爲サヽル者モ亦同シ

第六十一條　戎器又ハ兇器ヲ携帶シテ撰擧會場ニ入リタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十二條　投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲メニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ撰擧人ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六十三條　投票ヲ妨害スルノ目的ヲ以テ途中又ハ其他ニ於テ撰擧人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ撰擧人ヲ脅嚇スル者又ハ撰擧ニ關スル吏員若クハ立會人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ暴行ヲ以テ撰擧會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留、毀壞若クハ劫奪シタル者ハ二月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六十四條　多衆ヲ嘯集シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其情ヲ知リ嘯集ニ應シタル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第六十五條　當撰者第五十九條乃至第六十四條ノ刑ニ處セラレタルトキハ其當撰ハ無効トス

第六十六條　撰擧權ナク又ハ他人ノ氏名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲サントシ又ハ投票ヲ爲シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十七條　撰擧ニ關スル犯罪ハ六箇月ヲ以テ期滿免除トス

第六十八條　府縣會規則第十五條第十七條第十八條第十九條其他本規則ニ牴觸スル規定ハ總テ之ヲ廢止ス

法律第一號　明治二十二年一月二十二日

徵兵令

第一章　總則

第一條　日本帝國臣民ニシテ滿十七歲ヨリ滿四十歲迄ノ男子ハ總テ兵役ニ服スルノ義務アルモノトス

第二條　兵役ハ分テ常備兵役後備兵役及國民兵役トス

第三條　常備兵役ハ分テ現役及豫備役トス

現役ハ陸軍ハ三箇年海軍ハ四箇年ニシテ滿二十歲ニ至リタル者之ニ服シ豫備役ハ陸軍ハ四箇年海軍ハ三箇年ニシテ現役ヲ終リタル者之ニ服ス

第四條　後備兵役ハ五箇年ニシテ常備兵役ヲ終リタル者之ニ服ス

第五條　國民兵役ハ滿十七歲ヨリ滿四十歲迄ノ者ニシテ常備兵役及後備兵役ニ在ラサル者之ニ服ス

第六條　各兵役ノ期限既ニ滿ルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習或ハ觀兵ノ擧アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐箚中ハ其期ヲ延スコトアル可シ

第七條　重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ兵役ニ服スルコトヲ許サス

第二章　服役

第八條　陸軍現役兵ハ每年所要ノ人員ニ應シ壯丁ノ身材藝能職業ニ從ヒ步兵騎兵砲兵工兵輜重兵職工及雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ

海軍現役兵ハ每年所要ノ人員ニ應シ沿海地方及島嶼ノ壯丁ヲ調査シ海軍ニ適スル職業ニ從ヒ水兵火夫職工及雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ但海軍志願兵徵募規則ニ依リ服役スル者ハ本令ノ限ニ在ラス

警備隊ヲ置キタル島嶼ノ壯丁ハ總テ之ヲ警備隊ニ充テ其地ニ於テ服役セシム但在營期限ハ一箇年以內トス

第九條　雜卒ノ現役期限ハ其職務ニ因リ之ヲ短縮スルコトアル可シ但常備兵役ノ全期ハ之ヲ減スルコトナシ

第十條　二十歲ニ至ラスト雖モ滿十七歲以上ノ者ハ志願ニ由リ現役ニ服スルコトヲ得

第十一條　滿十七歲以上滿二十六歲以下ニシテ官立學校（小學科及撰科等ノ別科ヲ除ク）府縣立師範學校中學校若クハ文部大臣ニ於テ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認メタル學校若クハ文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學政治學理財學ヲ敎授スル私立學校ノ卒業證書ヲ所持シ若クハ陸軍試驗委員ノ試驗ニ及第シ服役中食料被服裝具等ノ費用ヲ自辨スル者ハ志願ニ由リ一箇年間陸軍現役ニ服スルヿヲ得但費用ノ全額ヲ自辨シ能ハサルノ證アル者ニハ其幾部ヲ官給スルヿアル可シ（廿二年法律第廿九號ニテ制註ヲ改正）

前項ノ一年志願兵ハ特別ノ敎育ヲ授ケ現役滿期ノ後二箇年間豫備役ニ五箇年間後備役ニ服セシム

滿十七歲以上滿二十六歲以下ニシテ官立府縣立師範學校ノ卒業証書ヲ所持シ官立公立小學校ノ敎職ニ在ル者ハ六週間陸軍現役ニ服セシム其服役ニ關スル費用ハ官給トス

前項ノ現役ヲ終リタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム（廿二年第廿九號ニテ改正）

前項志願兵ニシテ現役ヲ終リタル者ハ七箇年間豫備役ニ服シ三箇年間後備役ニ服ス

第三項又ハ第四項ニ依リ服役中ノ者ニシテ滿二十六歲迄ニ其敎職ヲ罷ムル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ更ニ常例ノ兵役ニ服セシム但シ第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者ハ此限ニアラス（二十二年第二十九號ニテ改正追加ス）

第十二條　禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ賭博犯ニ由リ懲罰ニ處セラレタル者ハ一年志願兵タルコト

ヲ許サス

第十三條　現役中殊ニ勤務ニ熟シ品行方正ナル者ハ歸休ヲ命スルコトアル可シ

第十四條　豫備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス平常ニ在テハ毎年一度六十日以内勤務演習ノ爲メ之ヲ召集シ又毎年一度簡閲点呼ヲ爲ス

第十五條　後備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ豫備兵ニ次テ之ヲ召集ス平常ニ在テ勤務演習及簡閲点呼ヲ爲スコト豫備兵ニ同シ

第十六條　國民兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ後備兵ヲ召集シ仍ホ兵員ヲ要スル𪜈ニ限リ之ヲ召集ス

第三章　免役延期及猶豫

第十七條　兵役ヲ免スルヽ癈疾又ハ不具等ニシテ徵兵撿査規則ニ照シ兵役ニ堪ヘサル者ニ限ル

第十八條　左ニ掲クル者ハ徵集ヲ延期ス次年ニ於テ仍ホ徵集ニ適セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

第一　體格完全且強壯ナルモ身幹未タ定尺ニ滿タサル者

第二　疾病中又ハ病後ニシテ勞役ニ堪ヘサル者

第十九條　公權ノ剝奪若クハ停止ヲ附加ス可キ重輕罪ノ爲メ訊問若クハ拘留中ノ者ハ徵集ヲ延期ス

第二十條　徵集ニ應スルトキハ其家族自活シ能ハサルノ確證アル者ハ本人ノ願ニ由リ徵集ヲ延期ス其事故三箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサル者ハ國民兵役ニ服セシム但分家又ハ絶家廢家再興ノ故ヲ以テ本條ニ當ル者其他自活シ能ハサル事故ヲ作爲シタル者ハ其願ヲ許可セス

第二十一條　第十一條ニ掲クル學校ニ在校ノ者ハ本人ノ願ニ由リ滿二十六歲迄徵集ヲ猶豫ス其事故滿二十六歲迄ニ止ミ又ハ二十六歲ヲ過クルモ仍ホ止マサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集ス但第十一條ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者及第十一條第三項ニ依リ服役スル者ハ此限ニ在ラス（二十二年第廿九號ニテ改正ス）

學術修業ノ爲メ外國ニ寄留スル者ハ本人ノ願ニ由リ滿二十六歲迄徵集ヲ猶豫ス二十六歲迄ニ歸朝シ又ハ二十六歲ヲ過キ歸朝スル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集ス但陸軍試驗委員ノ試驗ニ及第シタル者ハ一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

第二十二條　餘人ヲ以テ代フ可カラサル職務ヲ奉スル官吏及市町村長助役及收入役ハ豫備兵ニ在ルト後備兵ニ在ルトヲ問ハス勤務演習簡閲点呼ノ爲メ召集スルコトナシ

法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員其開會中又同シ

第四章　豫備徵員

第二十三條　抽籤番號ノ順序ニ從ヒ毎年所要ノ現役兵員ニ超過スル壯丁ハ一箇年間（十二月一日ヨリ起算ス）豫備徵員トシ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキ又ハ其年徵集ノ兵員缺クルトキ之ヲ徵集ス

第二十四條　豫備徵員ニシテ其期限内ニ徵集セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

第五章　雜則

第二十五條　毎年一月ヨリ十二月迄ニ滿二十歲ト爲ル者ハ其年ノ一月一日ヨリ同月三十一日迄ニ書面ヲ以テ（戶主ニ非サル者ハ其戶主ヨリ）本籍ノ市町村長ニ屆出可シ但二十歲未滿ニシテ現役ヲ終ヘタル者又ハ現役中ノ者ハ本條ノ屆出ヲ爲スニ及ハス

第二十六條　徵集ハ本籍所在ノ徵募區ニ於テスルヲ例トス他ノ徵募區ニ寄留スル者ハ願ニ由リ其區ニ於テ徵集ニ應スルコトヲ得

第二十七條　疾病又ハ犯罪等ノ爲メ年限ニ際シ入營シ難キ者ハ翌年之ヲ徵集ス

第二十八條　兵役ヲ免レンカ爲メ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒ又ハ逃亡若クハ潛匿シタル者又ハ正當ノ事故ナク身體ノ撿査ヲ受ケサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集

ス

第二十九條　現役年期ノ計算ハ總テ其入營スル年ノ十二月一日第十一條第三項ニ依リ服役スル者ノ現役年期ノ計算ハ則ニ勅令ヲ以テ規定スル月日ヨリ起算スヨリ起算シ豫備役及後備役年期ノ計算ハ其轉役スル年ノ十二月一日ヨリ起算ス第六條ニ依リ延期シタル者モ其起算法亦同シ但禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレ又ハ逃亡若クハ失踪シタル者ハ其刑期中及逃亡失踪中ノ日數ハ服役年期ニ算入セス（二十二年第二十九號ニテ割註ヲ加フ）

第六章　罰則

第三十條　第二十五條ノ屆出ヲ爲サヽル者及正當ノ事故ナク身體ノ撿査ヲ受ケサル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條　兵役ヲ免レンカ爲メ逃亡シ又ハ潛匿シ若クハ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七章　附則

第三十二條　本令ハ明治二十二年一月ヨリ施行ス但第二十五條ノ屆出期限ハ明治二十二年ニ限リ三月一日ヨリ同月十五日迄トス

第三十三條　本令ハ北海道ニ於テ函館江差福山ヲ除クノ外及沖繩縣並東京府管下小笠原島ニハ當分之ヲ施行セス

第三十四條　本令中市町村長トアルハ市制町村制ヲ實施スル迄ノ間戸長ノコトトス

第三十五條　舊令第十一條ニ依リ一箇年間陸軍現役ニ服シタル者ハ本令第十一條ニ照シ二箇年間豫備役ニ五箇年間後備役ニ服セシメ其豫備役二箇年ヲ終リタル者ハ直ニ後備役ニ服セシメ通シテ七箇年トス

第三十六條　舊令第十七條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十七條　舊令第十八條第二項ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十八條　舊令第十八條第七項及第二十一條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十九條　舊令第十八條第三項若クハ第十九條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シ在校ノ者ハ其事故六箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第四十條　第三十六條第三十七條第三十八條及第三十九條ニ揭クル者其事故各其本條ノ期限內ニ止ミタルトキハ抽籤ノ法ニ依リ徵集ス但一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

第四十一條　舊令第十八條第三項若クハ第十九條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シ在校ノ者ハ其事故六箇年以內ニ止ミタルトキ又ハ六箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ抽籤ノ法ニ依リ徵集ス但一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

第四十二條　舊令第卅條ニ依リ補充員ト爲リタル者ハ之ヲ豫備徵員ト爲シ一箇年間明治二十一年十二月一日ヨリ起算スニ徵集セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

第四十三條　舊令第三十一條ニ依リ第一豫備徵員ト爲リ在校セサル者及舊令第三十二條ニ依リ第二豫備徵員ト爲リタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム補充員ヨリ第一豫備徵員ト爲リタル者亦同シ

第四十四條　明治十二年第四十六號布告徵兵令ニ依リ國民軍ノ外免役又ハ平時免役若クハ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム

仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第四十五條　舊令第八條ニ依リ海軍兵ト爲リタル者ノ服役期限ハ同令第三條及第四條ニ依ル

第四十六條　第三十六條第三十七條第三十八條ニ掲クル徴集延期ノ者及第三十九條第四十一條ニ掲クル徴集猶豫ノ者其事故各其本條ノ期限内ニ止ミタルトキハ三日以内ニ本籍ノ市町村長ニ届出可シ第十一條第三項又ハ第四項ニ依リ服役中ノ者ニシテ滿二十六歳迄ニ其教職ヲ罷ムル者ハ五日以内ニ本籍ノ市町村長ニ届出ヘシ（二十二年第廿九號ニテ追加ス）

前項ノ届出ヲ爲サヽル者及本令施行前舊令第三十五條第三十六條ノ届出ヲ爲サスシテ本令施行後ニ於テ發覺スル者ハ本令第三十條ニ依リ處分ス可シ

明治十年一月二十日第七號布告

賣藥規則

第一章

第一條　明治十年十二月二十八日第八十九號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス

此規則ニ稱スル處ノ賣藥トハ丸藥膏藥煉藥水藥浴劑散藥煎藥等ヲ調製シ効能書ヲ附シ販賣スルモノヲ云フ

第二條　明治十一年九月十九日第二十七號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス

此賣藥營業者藥味分量用法服量功能ヲ詳記シタル書ニ族籍氏名ヲ記シ其管轄廳ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

第三條　明治十一年九月十九日第二十七號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス

賣藥規則

管轄廳ニ於テハ願書ヲ檢査シ其製藥配伍ノ藥品劇毒微毒ニ拘ラス取扱上失誤ヲ生ジ易キモノ及ヒ毒藥劇藥取締ニ關係スルモノハ之レヲ許サザル可シ

第四條　第八條ニ記シタル期限中藥味分量用法服量能書ヲ改正セント欲スル者其由ヲ届出舊鑑札ヲ返納シ更ニ新鑑札ヲ願受クヘシ

第五條　明治十一年九月十九日第廿七號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス

賣藥ヲ受賣セント欲シ其營業者ノ許諾ヲ得タルモノハ族籍氏名ヲ記シタル願書ニ營業者所持スル官許公文ノ寫及ヒ營業者ト取結ヒタル約定書トヲ添ヘ其管轄廳ヘ願出内務省ノ免許鑑札ヲ受クヘシ

第六條　賣藥營業者及ヒ請賣者共必ス免許ノ看板ヲ掲クヘシ

第七條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自ラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サシメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スルトキハ必ス之レヲ所持ス可シ

第八條　營業鑑札請賣鑑札行商鑑札ハ其鑑札記載ノ月ヨリ滿五年ヲ以テ免許ノ期限トス此期限ヲ過キ尚ホ免許ヲ得ント欲スルモノハ舊鑑札ヲ返納シ更ニ新鑑札ヲ願受クヘシ

第九條　第八條ニ記シタル期限中第四條ノ改正發賣ヲ願出之ヲ免許スル時ハ新鑑札記載ノ月ヲ以テ一期ノ初月ト爲スヘシ

第十條　免許期限内ト雖モ其製藥第三條ニ掲クル處ノ有害（明治十一年九月十九日第二十七號布告ヲ以テ有毒ヲ有害ニ改ム第十九條但書モ亦同シ）品ナルヲ更ニ發見スル時或ハ營業者製藥ヲ粗惡ニスル等ノコトアル時ハ直ニ鑑札ヲ取上ケ發賣ヲ禁止スルコトアル可シ

第十一條　營業者廢業スルカ又ハ禁止セラルヽトキハ其請賣及賣子共其販賣ヲ許サス

第十二條　諸鑑札ヲ遺失シ又ハ水火盜難ニ因テ毀失シタルトキハ其子細ヲ詳記シテ管轄廳ヘ届ケ出再ヒ之ヲ願受クヘシ

第十三條　免許鑑札ヲ他人ニ讓渡サント欲スル者ハ双方連印ノ願書ヲ管轄廳ヘ差出シ名前書換ヲ

請フヘシ

第十四條　明治十年十二月廿八日第八十九號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス

賣藥營業者及請賣者免許期限中其相續人ニ於テ之ヲ相續スル時ハ其由ヲ記シ管轄廳ヘ鑑札名前書換ヲ乞フヘシ

第十五條　賣藥營業者廢業シ若クハ禁止セラレタル時ハ營業者ハ勿論其受賣者ニ於テモ總テ諸鑑札ヲ返納ス可シ

第二章

第十六條　明治十四年四月二十六日第二十六號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス

賣藥營業者ハ左ノ通稅金幷ニ鑑札料ヲ上納ス可シ

賣藥營業稅　藥劑一方ニ付一ケ年　金貳圓

右鑑札料　藥劑一方ニ付一枚　金貳拾錢

第十七條　水火盜難ニ因リ鑑札ヲ毀失シ更ニ新鑑札ヲ願受クル時ハ其鑑札料ノ半高ヲ納ムヘシ

第十八條　稅金ハ毎年兩度ニ區分シ前半年分ハ七月三十一日限リ後半年分ハ明年一月三十一日限リ鑑札料ハ其都度幷ニ管轄廳ヘ上納ス可シ

第十九條　稅金ハ六月以前免許ノ者ハ前年分七月以後ハ半年分廢業ノ者ハ七月以後ハ前年分六月以前ハ半年分ヲ納ムヘシ

賣藥規則

但第十條ノ有害品ナルヲ更ニ發見セシ時ニ限リ月割ヲ以テ稅金ヲ納メシムヘシ

第三章

第二十條　無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ自ラ行商シ又ハ行商セシムル者及ヒ之ヲ貸ス者又ハ期限過タル鑑札ヲ以テ自ラ行商シ又ハ行商セシムル者ハ其鑑札ヲ取上ケ藥劑一方ニ付五圓ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十一條　無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ又ハ期限過キタル鑑札ヲ以テ受賣スル者及ヒ無鑑札ノ者ヲシテ受賣セシメ又ハ鑑札ヲ貸ス者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ沒入シ藥劑一方ニ付十圓ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十二條　免許ヲ受ケスシテ私ニ藥味分量用法服量能書等ヲ改更シ又ハ許可ヲ經スシテ無稽ノ妄說ヲ記載シ世人ヲ眩惑スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ沒入シ藥劑一方ニ付十圓以上二十五圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十三條　明治十四年四月二十六日第二十六號布告ヲ以テ左ノ如ク改ム

無鑑札ニテ營業スル者又ハ營業者ニシテ私ニ受賣者ニ藥劑ヲ調製セシムル者又ハ受賣者自ラ之ヲ調製スル者ハ其製藥及ヒ賣得金ヲ沒入シ藥劑一方ニ付二十五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ科ス可シ

第二十四條　諸鑑札ヲ僞造シ又ハ他人ノ賣藥ヲ贋造シテ發賣スルモノハ其製藥及ヒ其賣得金ヲ沒入シ藥劑一方ニ付五十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十五條　私ニ有毒藥ヲ配伍スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥及ヒ其得金ヲ沒入シ藥劑一方ニ付キ百圓以上五百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十六條　以上ノ犯則者ヲ見屆ケ訴出ル者アル時ハ事實取糾ノ上相違ナキニ於テハ其賞トシテ其罰金ノ半高ヲ與フヘシ

勅令第六十六號　十月八日

登記印紙規則

第一條　明治十九年「八月」法律第一號登記法ニ定メタル登記料及手數料ハ登記印紙ヲ以テ納付スヘシ

第二條　登記印紙ハ登記法ノ定率ニ從ヒ登記ニ關スル請求ノ書面ニ貼用シ請求人記名ノ下ニ押捺スル印ヲ以テ書面ト印紙ノ彩紋トニカケテ消印スヘシ

第三條　登記印紙ノ種類定價及其賣下ニ關スル手續ハ大藏大臣之ヲ定ム

第四條　登記印紙ハ官廳ノ許可シタル賣捌所ノ外ニ於テ之ヲ賣捌クコトヲ得ス若其賣捌ノ外ニ於テ之ヲ賣捌キタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ印紙ヲ沒收ス其情ヲ知テ登記印紙ヲ買取シタルモノハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條　前條ノ規則ヲ犯シタルモノニハ刑法ノ不論罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第六條　本規則ハ明治二十一年十二月一日ヨリ施行ス

◎勅令第六十七號　十月十日

航路標識條例

第一條　航路標識ハ航路ノ安寧ヲ保護スル爲メ政府ニ於テ之ヲ設置スルモノトス

第二條　土地ノ形狀又ハ情況ニ由リテハ地方稅又ハ區町村費ヲ以テ航路標識ヲ設置スルコトヲ得此場合ニ於テハ地方長官ニ於テ內務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

從來私設ノ航路標識ハ免許年限間之ヲ繼續スルコトヲ得

遞信大臣ニ於テ前二項ノ航路標識不完全ニシテ危害アリト認メタルトキハ之ヲ變更又ハ撤去セシムルコトヲ得

政府ニ於テ直接管理ヲ必要トスルトキハ相當ノ價格ヲ以テ第一項第二項ノ航路標識ヲ買上ルコトヲ得

第三條　航路標識ヲ損壞シ又ハ移轉シ又ハ其性質ヲ變更シ又ハ之ヲ蔽遮スヘキ所爲ヲナシ又ハ遞信大臣ノ指定シタル區域內ニ於テ航路標識ノ燈光若クハ警號ト誤認シ易キ所爲ヲナシタル者ハ十一日以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四條　航路標識ニ船筏其他ノ物ヲ繫キ又ハ衝突セシメ又ハ攀躋シ又ハ之ヲ汚穢シタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

◎法律第三十二號　十二月二十日

國稅滯納處分法

第一章　總則

第一條　國稅ノ滯納ニ係ルモノハ關稅ヲ除クノ外總テ此法律ニ依テ處分ス

第二條　國稅ヲ其納期限ヲ過キ完納セサル者アルトキハ收入官吏ヨリ督促令狀ヲ發スヘシ

督促令狀ヲ發スルトキハ手數料トシテ一通ニ付金三錢ヲ徵收スヘシ

第三條　滯納者督促令狀ヲ受タル日ヨリ五日以內ニ稅金ヲ完納セサルトキハ其所有財產ヲ差押ヘ賣却シテ之ヲ徵收スヘシ

第四條　滯納者ノ納稅義務ハ滯納處分濟ヲ以テ終ルモノトス

第五條　滯納者財產ノ價格處分費ヲ償フテ剩餘ヲ得ル見込ナキトキハ差押ヲ爲スヿヲ得ス此場合ニ於テモ亦前條ニ同シ

第六條　滯納處分費滯納稅金ニ付テハ他ノ債主ニ對シ先取權アルモノトス但滯納シタル稅金ノ納期限ヨリ一箇年前ニ質入書入ト爲シタル財產ニ付テハ此限ニ在ラス

第七條　酒類醬油造石稅ニ付滯納處分ヲ爲ストキハ其課額既ニ定マリタル稅金ハ未タ其納期ニ至ラサルモ滯納稅金ト併セテ之ヲ徵收スヘシ

第八條　滯納處分費ハ左ニ掲クル費目ニシテ督促令狀手數料ヲ除クノ外實際支辨スルモノヲ云フ

第一　督促令狀手數料

第二　差押調書及賣却調書調製費

第三　滯納者又ハ其債主若クハ負債者ニ對スル通信費

第四　評價人看守人又ハ競賣人ノ給料

第五　差押物件ノ運搬保管又ハ賣却ニ要スル諸費

第六　公告費

第七　訴訟ニ要スル諸費

第九條　滯納者ニ於テ賣却決行ノ前日マテニ處分費稅金ヲ完納スルトキハ其財產ノ差押ヲ解クヘシ

第三者ヨリ滯納者ノ爲メニ前項ノ金額ヲ代納シタルトキ亦同シ

第十條　滯納處分執行ニ關シ不服アリテ出訴スル者アルモ其處分ノ執行ヲ停止セス

第十一條　收入官吏ノ收入管轄地外ニ於テ滯納處分ヲ爲スヿヲ要スルトキハ收入官吏ヨリ其處分ヲ爲ヘキ地ノ收入官吏ニ之ヲ囑託スルヿヲ得但他ノ地方管內ニ係ルトキハ收入官吏ハ其所屬長官ヲ經テ囑託ノ手續ヲ爲スモノトス

第二章　差押

第十二條　財產差押ヲ爲ストキハ地方長官ヨリ差押命令書ヲ發シ收入官吏ヲシテ之ヲ執行セシムヘシ

第十三條　財產差押ヲ爲ストキハ處分費稅金ニ充ル金額ヲ目途トシ通貨ヲ先ニシ次ニ左ノ順序ニ從ヒ其物件ノ賣却代價ヲ見積リ逐次差押ヲ爲スヘシ但第一第二第三ノ物件ハ事宜ニ依リ順序ニ拘ハラズ之ヲ差押フルヿヲ得又物件ノ分割スヘカラサルモノ及分割スレハ價値ヲ減スヘシト認ムルモノハ其全部ヲ差押フルヿヲ得

第一　地金銀、公債證書、株券、手形、其他ノ證券

第二　農業其他營業上ノ生產物、製造物及賣品

第三　第一第二ニ掲ケサル動產及一月以內ニ收獲シ得ヘキ土地ノ生產物

第四　債主權

第五　不動產

第六　質入書入ト爲シタル財產但質屋營業者ニ質入シタル動產ヲ除ク

第十四條　主タル物件ノ差押ハ其物件ヨリ生スル利益又ハ生產物ニモ其効力ヲ及ボスモノトス

第十五條　滯納處分着手以前ニ裁判執行ノ爲メニ滯納者ノ財產一部ヲ差押ヘラレタル場合ニ於テハ其殘部ヲ差押フヘシ其賣却代價處分費稅金ニ對シ不足ナルヘシト認ムルトキハ該裁判所ニ照會シテ其不足金額ヲ請求スヘシ

第十六條　第十三條第一第二第三ノ物件ニシテ滯納者所有ノ家屋倉庫其他滯納者所用ノ場所ニ現在スルモノハ滯納者ノ所有ニ非サル旨ヲ申告スト雖モ其證據分明ナラサルトキハ之ヲ差押フルヿヲ得

第十七條　前條ノ場合ニ於テ差押物件ノ取戻ヲ請求セントスル者ハ賣却決行ノ五日前マテニ所有主タルヿ證憑ヲ具ヘテ收入官吏ニ其取戻ヲ請求スヘシ

第十八條　左ニ掲クル物件ハ之ヲ差押フルヿヲ得ス

第一　滯納者及其同居家族ノ生活上缺クヘカラサル衣服、寢具、家具及廚具

第二　滯納者及其同居家族ノ人口ヲ量リ三十日間ノ生活ニ必要ナル食料及薪炭

第三　實印

第四　祭祀ニ必要ナル物品及石碑、墓地
第五　滯納者ノ家ニ必要ナル系譜、日記、書付類
第六　滯納者及其同居家族ノ身分ニ必要ナル制服、祭服、法衣
第七　勳章其他名譽ノ章票
第八　修學上必要ナル教科書、器具
第九　發明ニ係ル未定ノ物品、未タ發行セサル著譯書類
第十　滯納者ノ同居家族ノ財産ニシテ一箇年前ニ官簿ニ記載シタルモノ若クハ一箇年前ニ記名シタル公債證書、株券、手形其他ノ證券
但所得稅ニ關シテハ此限ニ在ラス

第十九條　左ニ揭クル物件ハ他ニ處分費稅金ヲ償フニ足ルヘキ物件存在スルトキハ滯納者ノ撰擇ニ依リ差押ヲ爲サヽルモノトス
第一　農業ニ必要ナル器具、種子、肥料及牛馬並ニ其飼料
第二　職業ニ必要ナル器具及材料

第二十條　收入官吏ハ財産差押ヲ爲スタメ滯納者ノ家屋倉庫其他ノ場所ニ立入ルヿヲ得
滯納者他人ノ家屋倉庫其他ノ場所ニ物件ヲ藏匿スト思料スルトキハ收入官吏場所ニ立入リ取調ヲ爲スヿヲ得
收入官吏滯納者又ハ他人ノ家屋倉庫其他ノ場所ニ立入ルハ日出ヨリ日沒マテノ時間ニ限ルヘシ

第二十一條　收入官吏滯納者ノ家屋倉庫其他ノ場所ニ立入ルトキハ滯納者若クハ其同居家族他人ノ家屋倉庫其他ノ場所ニ立入ルトキハ其所用者若クハ其同居家族ナシテ立會ハシムヘシ
滯納者又ハ所用者及其同居家族トモ不在ナルトキハ隣佑一名以上又ハ市町村若クハ警察ノ吏員ヲシテ立會ハシムヘシ

第二十二條　收入官吏ハ財産差押ヲ爲スニ當リ門戸倉庫房室及筐匣等ノ閉鎖シアルトキハ之ヲ開カシメ又ハ自ラ之ヲ開クヿヲ得

第二十三條　收入官吏財産差押ヲ爲ストキハ差押命令書ヲ携帶シ滯納者若クハ立會人ノ求ニ依リ之ヲ示スヘシ

第二十四條　財産ヲ差押ヘタルトキハ收入官吏其差押調書ヲ作リ立會人ト共ニ署名捺印シ其謄本ヲ立會人ニ交付スヘシ

第二十五條　通貨及第十三條第一ノ物件ヲ差押ヘタルトキハ封印シテ其地ノ市町村長ニ預ケ第十三條第二以下ノ物件ヲ差押ヘタルトキハ其目錄ヲ添テ其地ノ市町村長ニ之ヲ預ケ其預リ證書ヲ取ルヘシ

第二十六條　左ノ場合ニ於テハ滯納者又ハ其同居家族ヲシテ差押物件ノ保管ヲ爲サシムルヿヲ得
第一　收入官吏ニ於テ必要ト認ムルトキ
第二　運搬ニ困難ナルトキ又ハ多額ノ運搬費ヲ要スルトキ
此場合ニ於テハ封印又ハ其他ノ方法ニ依リ差押物件タルヿヲ明ニスヘシ又必要ナル場合ニ於テハ看守人ヲ置クヘシ

第二十七條　債主權ヲ差押ヘタル場合ニ於テハ收入官吏ヨリ負債者ニ對シ差押ノ通知ヲ爲スヘシ
負債者前項ノ通知ヲ受ケタル後滯納者ニ對シ其義務ヲ履行シタルトキハ其履行ノ効ナキモノトス

第二十八條　不動産及船舶ヲ差押ヘタルトキハ收入官吏ハ所轄登記所ニ照會シテ差押ノ記入ヲ受クヘシ

第二十九條　質入書入ト爲シタル財産ヲ差押ヘタル場合ニ於テハ收入官吏ハ差押物件處分費、稅

金額及賣却決行ノ期日ヲ其債主ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ當リ其債主ニ於テ處分費税金ヲ完納シタルトキハ其差押ヲ解クヘシ

第三章　賣却

第三十條　財産差押ノ手續ヲ終リタルトキハ収入官吏ハ其翌日ヨリ三日以後五日以内ニ賣却公告ノ手續ヲ爲スヘシ

賣却ノ公告ハ左ノ場所ニ掲示シテ三日以上之ヲ爲スヘシ

第一　課税地ノ郡市役所及區役所若クハ町村役場ノ掲示場

第二　物件所在ノ場所

賣却物件ノ價多額ナルカ又ハ滯納者ノ請求アルカ又ハ収入官吏必要ト認ムル場合ニ於テハ前項ニ掲クル場所ノ外近傍人民群集地ニ掲示シ又ハ其地方ノ新聞紙ニ其要件ヲ公告スルヿアルヘシ

第三十一條　差押物件ハ入札若クハ競賣ノ方法ヲ以テ之ヲ公賣スルモノトス但法律規則ニ依リ取扱ニ制限アル物件ハ此限ニ在ラス

前項但書ノ物件及豫定總價額一圓未滿ノ差押物件ハ公賣ニ付セス評價ヲ以之ヲ賣却スルヿヲ得

第三十二條　差押物件ヲ賣却セントスルトキハ収入官吏ニ於テ其物件ノ價格ヲ豫定シ之ヲ封書トシ入札若クハ競賣ノ場所ニ置クヘシ

第三十三條　賣却ハ差押物件所在ノ市町村内ニ於テ之ヲ爲スヘシ但収入官吏ニ於テ必要ナリト認ムルトキハ他ノ地ニ於テ之ヲ賣却スルヿヲ得

第三十四條　滯納者及賣却ヲ爲ス地方ノ税務ニ關スル官吏雇員ハ直接ト間接トヲ問ハス其賣却物件ヲ買受ルヿヲ得ス

第三十五條　第十三條第一第二第三ノ物件ハ公告ノ日ヨリ十日以外第四第五第六ノ物件ハ二十日以外ニ於テ賣却ヲ爲スヘシ

第三十六條　差押物件損敗シ易キモノ又ハ多額ノ保存費ヲ要スルモノ又ハ其價格ヲ著シク減少スルノ恐アルモノナルトキハ前條ノ日限ニ拘ハラス之ヲ賣却スルヿヲ得

第三十七條　收穫前ニ差押ヘタル生産物ハ其成熟ノ後之ヲ賣却スヘシ

第三十八條　債主權ヲ差押ヘタル場合ニ於テハ負債者其義務ヲ認メタル後之ヲ賣却スヘシ若シ負債者其義務ヲ認メサルトキハ收入官吏ハ其差押ヲ解キ更ニ他ノ物件ヲ差押フルヿヲ得

負債者其義務ヲ認メサル場合ニ於テ他ニ差押フヘキ物件ナキトキハ收入官吏ハ裁判所ニ出訴スルヿヲ得

第三十九條　不動産及船舶ノ公賣ハ入札ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第四十條　賣却ヲ爲スニ當リ買受望人ナキカ又ハ其買受價額カ豫定價格ニ達セサルトキハ收入官吏ハ其豫定價格ノ幾分ヲ減シテ更ニ豫定價格ヲ定メ再公賣ヲ爲スヘシ此場合ニ於テ尚ホ買受望人ナキカ又ハ其買受價額尚ホ豫定價格ニ達セサルトキハ其豫定價格ヲ以テ其物件ヲ政府ニ買上ケ其代金ヲ處分費税金ニ充ツヘシ

第十三條但書ニ依リ差押ヘタル全部ノ物件ヲ政府ニ買上ケタル場合ニ於テ其代金ヲ處分費税金ニ充テ尚ホ殘餘アルトキハ第四十三條ニ依リテ處分スヘシ

第四十一條　賣却ヲ終リタルトキハ收入官吏ハ賣却調書ヲ製シ買受人ト共ニ署名捺印シテ其謄本ヲ滯納者ニ交付スヘシ質入書入ノ物件ヲ賣却シタル場合ニ於テハ其債主ニモ其謄本ヲ交付スヘシ

買受人賣却調書ニ署名捺印スルヿ能ハサルトキハ其事由ヲ記載スヘシ

債主權ヲ賣却シタル場合ニ於テハ負債者ニ買受人ノ住所氏名ヲ通知スヘシ

第四十二條　賣却シタル物件登記ヲ要スルモノナルトキハ收入官吏ハ落札達書及代金完納ノ證書ヲ

買受人ニ交付スヘシ

第四十三條　差押物件ノ賣却代金及差押ヘタル通貨ハ處分費稅金ニ充テ尙ホ殘餘アルトキハ之ヲ滯納者ニ還付スヘシ

賣却シタル物件質入書入ト爲シタルモノナルトキハ其代金ヨリ先ツ處分費稅金ヲ扣除シ次ニ其負債金額ニ充ルマテヲ債主ニ交付シ尙ホ殘餘アレハ之ヲ滯納者ニ還付スヘシ若シ滯納稅金ノ納期限ヨリ一ケ年前ニ質入書入ト爲シタルモノナルトキハ其代金ヨリ先ツ其負債金額ニ充ルマテヲ債主ニ交付シ次ニ處分費稅金ヲ扣除シ尙ホ殘餘アレハ之ヲ滯納者ニ還付スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ滯納者ニ對シ裁判ノ執行アルトキハ其殘餘金ハ該裁判所ニ送付スヘシ

第四十四條　債主ニ交付スヘキ金額ハ賣却調書ノ謄本及計算書ヲ滯納者ニ交付シタル後五日ヲ經テ之ヲ交付スヘシ若シ五日以內ニ滯納者ヨリ異議ヲ申立ルトキハ其事由ヲ債主ニ通知シ雙方連署ノ書面又ハ確定裁判ノ言渡書ヲ以テ其金額受取方ヲ申出タルトキ之ヲ交付スヘシ

第四章　送達

第四十五條　滯納處分ニ關シ滯納者又ハ其債主若クハ負債者ニ對シ書類ヲ送達スルニハ使丁ヲシテ之ヲ送達セシムヘシ但送達ヲ受クヘキ者遠隔ノ地ニ在ル場合ニ於テハ書留郵便ヲ以テ送達スルヿヲ得

第四十六條　使丁ハ送達書類ヲ本人ニ渡スヘシ本人不在ナルトキハ同居人ニ渡スヘシ

使丁ハ送達書類ヲ受取リタル者ヨリ領收書ヲ取リテ收入官吏ニ差出スヘシ受取人領收書ヲ記スルヿ能ハサルトキハ使丁代テ之ヲ記シ其旨ヲ附記シテ捺印セシムヘシ

第四十七條　送達ヲ爲スニ當リ本人不在ニシテ且本人ニ代リテ受取ルヘキ者アラサルトキハ送達書類ヲ其地ノ市町村長ニ渡シ市町村長ハ其書類ヲ受取人ニ渡シ其領收書ヲ取リテ收入官吏ニ差出スヘシ

第四十八條　市長村長ニ於テ相當ノ處置ヲ爲スモ書類ヲ受取人ニ渡スヿ能ハサルトキハ公示スヘシ

公示ハ送達スヘキ書類ノ要旨ヲ摘記シテ之ヲ其本人所在地ノ市役所若クハ區役所若クハ町村役場ノ掲示場ニ三日間掲示スルモノトス

前項ノ掲示ヲ爲シタル日ヨリ五日ヲ經過スルトキハ書類ノ送達アリタルモノト看做スヘシ

第四十九條　郵便ヲ以テ書類ヲ送達スルニ當リ受取人ノ住居不分明ニシテ配達スルヿ能ハザルトキハ收入官吏ハ其書類ヲ市町村長ニ送致シ市町村長ハ前二條ニ依リ處分スヘシ

第五章　罰則

第五十條　正當ノ理由ナクシテ第廿一條第一項ノ立會ニ應セサル者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十一條　滯納處分ニ對シ財ヲ藏匿脫漏シ又ハ虛僞ノ契約ヲ爲シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

差押物件ノ保管者其保管ニ係ル物件ヲ藏匿脫漏費消若クハ故意ニ毀損シタル者モ亦同シ

情ヲ知テ前二項ノ所爲ヲ幇助シ又ハ虛僞ノ契約ヲ承諾シタル者ハ各本刑ニ一等ヲ減ス

附則

第五十二條　市町村制ヲ施行セサル土地ニ在テハ市町村長ノ職務ハ區戶長之ヲ行フヘシ

第五十三條　此法律ハ明治二十三年一月一日ヨリ施行ス但沖繩縣及東京府管轄小笠原島伊豆七島ハ之ヲ施行セス

第五十四條　明治十年第七十九號布告及現行法令中此法律ニ牴觸スル條項ハ總テ廢止ス

衆議院議員撰擧法罰則（廿二年二月第三號法律ハ罰則ノミヲ掲ケ他ハ省略ス）

第八十九條　納稅額年齡住所及其ノ他撰擧資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シ撰擧人名簿ニ記載セラレタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十條　投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品手形若ハ公私ノ職務ヲ撰擧人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

其ノ授與又ハ約束ヲ受ケタル者モ亦同シ

第九十一條　直接又ハ間接ニ金錢物品手形若ハ公私ノ職務ヲ撰擧人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シテ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ刑法第二百三十四條ノ例ヲ以テ論ス

其ノ授與又ハ約束ヲ受ケ投票ヲ爲シ又ハ他人ニ投票ヲ爲サヽル者亦同シ

第九十二條　投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スル目的ヲ以テ撰擧人ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十三條　撰擧人ニ暴行ヲ加ヘテ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ得スコトヲ抑止シタル者ハ三月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十四條　撰擧人ヲ强逼シ又ハ投票所若ハ撰擧會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若ハ刼奪スルノ目的ヲ以テ多衆ヲ嘯聚シタル者ハ六月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其ノ情ヲ知テ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帶シタルトキハ各々本刑ニ一等ヲ加フ

第九十五條　撰擧ノ際管理者又ハ立會人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ暴行ヲ以テ投票所若ハ撰擧會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若ハ刼奪シタル者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帶シタルトキハ各々本刑ニ一等ヲ加フ

第九十六條　多衆ヲ嘯聚シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ重禁獄ニ處ス

其ノ情ヲ知テ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帶シタルトキハ各々本刑ニ一等ヲ加フ

第九十七條　演說又ハ新聞紙若ハ其ノ他ノ文書ヲ以テ人ヲ敎唆シ前三條ノ罪ヲ犯サシメタル者ハ刑法第百五條ノ例ニ依ル其ノ敎唆ノ効ナキ者モ仍本刑ニ二等ヲ減シ處斷ス

第九十八條　戎器又ハ兇器ヲ携帶シテ投票所若ハ撰擧會場ニ入リタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十九條　當撰人ニ於テ第八十九條ヨリ第九十八條ニ至ルマテノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ當撰ハ無効トス

第百條　他人ノ姓名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲シタル者及第十四條ニ依リ撰擧人タルコトヲ得サル者投票ヲ爲シタルトキハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百一條　前數條ノ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ再ヒ罰金ノ刑ニ處セラレタル者ハ三年以上七年以下撰擧權及被撰權ヲ停止ス

第百二條　立會人正當ノ事故ナクシテ此ノ法律ニ規定シタル義務ヲ缺クトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百三條　本章ニ規定シタル罰則ノ外刑法ニ正條アルモノハ各々其ノ條ニ依リ重キニ從テ處斷ス

第百四條　凡テ撰擧ニ關ル犯罪ハ六箇月ヲ以テ期滿免除トス

第百五條　此ノ罰則ハ第十一章ノ各條ト共ニ投票所及撰擧會場ニ貼示スヘシ

㊟明治二十三年五月廿九日法律第四十號

衆議院議員撰擧法罰則補則

第一條　投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ選擧會場又ハ投票所ノ近傍若クハ選擧人往來ノ途中ニ於テ選擧人ニ酒食ヲ供シ又ハ選擧會場若クハ投票所ニ往復スル爲車馬ノ類ヲ給シ及其供給ヲ受ケタル者又ハ選擧人ノ爲ニ選擧會場若クハ投票所ニ往復スル車馬賃又ハ路費若クハ休泊料ノ類ヲ代辨シ又ハ代辨スルヿヲ約束シ及其ノ代辨又ハ約束ヲ受ケタル者ハ衆議院議員選擧法第九十條ノ例ニ依リ處斷ス

第二條　第一條ニ記載シタル目的ヲ以テ選擧人ヲ脅逼シ拐引シ若クハ其往來ノ便ヲ妨ケ若クハ詐僞ノ手段ヲ以テ其選擧權ノ施行ヲ妨害シタル者ハ衆議院議員撰擧法第九十二條ノ例ニ依リ處斷ス

本條ニ記載シタル所業ヲ爲シテ第一條ニ記載シタル目的ヲ達シタル者ハ衆議院議員選擧法第九十三條ノ例ニ依リ處斷ス

第三條　被選人タルコトヲ得ル者ヲ指シテ被選人タルコトヲ得ス又ハ當選ヲ承諾スルノ意ナシトノ虛報ヲ流傳セシメタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四條　選擧會場又ハ投票所所在ノ郡市內ニ於テ選擧ノ氣勢ヲ張ル爲多衆集合シ若クハ隊伍ヲ組ミテ往來シ又ハ篝火松明ヲ焚キ若クハ鐘鼓法螺喇叭ノ類ヲ鳴ラシ旗幟其他ノ標章ヲ用ヰル等ノ所業ヲ爲シ警察官ノ制止ヲ受クルモ仍其命ニ從ハサル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處ス

五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五條　第一條ニ記載シタル目的ヲ以テ張札ノ類ヲ公然掲示シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條　當選人第一條乃至第四條ニ依リ刑ニ處セラレタルトキハ衆議院議員選擧法第九十九條ノ例ニ依ル

第七條　本法ニ關スル犯罪ハ衆議院議員選擧法第百四條ノ例ニ依ル

商標條例

㊟勅令第八十六號　二十一年十二月十八日

第一條　自己ノ商品ヲ表彰スル爲メ商標ヲ使用セント欲スル者ハ此條例ニ依リ其商標ノ登錄ヲ受ケ之ヲ專用スルコトヲ得

商標ハ特別著名ナル圖形字體又ハ其結合ヲ以テ要部ト爲スヘシ

第二條　左ニ掲クル商標ハ登錄ヲ受クルコトヲ得サルモノトス

一　風俗ヲ害スヘキモノ

二　商標普通ノ名稱若クハ內外國ノ國旗章ノミヲ以テ要部ト爲スモノ

三　他人ノ登錄商標又ハ登錄出願以前ヨリ他人ノ使用スル商標ト同一若クハ類似ニシテ同一商品ニ使用セントスルモノ

第三條　商標ノ登錄ヲ受ケント欲スル者ハ一商標毎ニ明細書及見本ヲ添ヘ農商務大臣ニ出願スヘシ其願書明細書及見本ハ特許局ニ差出スヘシ

第四條　商標ノ登錄ヲ出願スル者アルトキハ特許局長ハ特許局審査官ヲシテ其商標ヲ審査セシメ登錄證許スヘシト査定シタルモノハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ商標原簿ニ登錄シ其登錄證下付ノ

手續ヲ爲スヘシ

第五條　登錄證ハ農商務大臣之ニ署名シ特許局長之ニ副署シ明細書及見本ヲ添ヘ下付スル者トス

第六條　商標專用ノ年限ハ二十年ト爲シ原簿登錄ノ日ヨリ起算ス

第七條　商標ノ專用ハ農商務大臣ノ定ムル商品類別ニ於テ出願人ノ指定シタル商品ニ限ル者トス

第八條　二人以上同一又ハ類似ノ商標ヲ同一商品ニ使用セントシテ登錄ヲ出願スル者アルトキハ願書日附ノ先ナルモノヲ登錄ス其日附同キモノハ共ニ之ヲ登錄セサルモノトス但其願書ヲ取消ス者アリテ出願者一人トナリタルトキハ此限ニ在ラス

第九條　商標ノ登錄ヲ受ケタル者之ヲ受ケントスル者死亡シタルトキハ其權利ハ相續者ニ屬スルモノトス

第十條　登錄ヲ受ケタル商標ト雖モ第二條ニ該ルコトヲ發見セラレタルモノ又ハ第八條ニ違ヒ登錄ヲ受ケタルコトヲ發見セラレタルモノハ其登錄ヲ無効トス

第十一條　商標ノ審査査定審判ニ關スル事項ハ總テ特許條例ヲ適用ス

第十二條　登錄商標主其營業ヲ賣與讓與シ又ハ他人ト其營業ヲ共ニスル場合ニ限リ其商標專用權ヲ賣與讓與シ若クハ共有トナスコトヲ得此場合ニ於テハ特許局ニ請求シ契約ノ登錄ヲ受クヘシ

登錄ヲ受ケサル契約ハ第三者ニ對シ法律上其効ナキモノトス

第十三條　登錄ヲ受ケタル商標ト雖モ左ノ場合ニ於テハ登錄ノ効ヲ失フモノトス

一　登錄商標主相當ノ事故ナクシテ商標登錄ノ日附ヨリ六個月ヲ經テ其商標ヲ使用セサルトキ

二　登錄商標主相當ノ事故ナクシテ其商標ノ使用ヲ一個年間中止シタルトキ

三　登錄商標主其商標ヲ使用スル營業ヲ廢止シタルトキ

四　登錄商標主其商標ヲ使用スル商品ノ數量產地品質等ニ關シ不實ノ事項ヲ附記シタルトキ

五　登錄商標主磨滅若クハ缺損シタル商標ヲ使用シタルトキ

第十四條　登錄商標主其專用年限滿期ノ後其商標ヲ續用セント欲スル者ハ更ニ其登錄ヲ出願スルコトヲ得

第十五條　登錄商標主其登錄證ヲ毀損若クハ亡失シタルトキハ事由ヲ具シ再下付ヲ出願スルヿヲ得

第十六條　登錄商標主其明細書若クハ見本ノ不完全ナルコトヲ發見シタルトキハ登錄ノ効力ヲ全クスル爲メ改訂明細書若クハ見本ヲ添ヘ登錄證ノ改訂ヲ出願スルコトヲ得但其商標ノ要部ニ變更ヲ生スルモノハ此限ニ在ラス

第十七條　商標ニ關シ出願又ハ請求スル者ハ左ノ手數料ヲ納ムヘシ

一　商標ノ登錄ヲ出願スルトキ

一商標ニ付商品一類毎ニ　金壹圓

二　登錄商標ノ賣與讓與又ハ共有契約ノ登錄請求スルトキ

一商標ニ付商品一類毎ニ　金三圓

三　登錄證ノ再下付ヲ出願スルトキ

證書一枚毎ニ　金壹圓

四　登錄證ノ改訂ヲ出願スルトキ

一商標ニ付商品一類毎ニ　金貳圓

五　審判ヲ請求スルトキ

一事件毎ニ　金七圓

第十八條　商標登錄證又ハ其改訂登錄證又ハ其續用登錄證ヲ受クル者ハ其商標ヲ使用スル物品一類毎ニ登錄料金拾圓ヲ納ムヘシ

第十九條　特許局ハ時々商標公報ヲ印刷シ衆庶ノ縱覽ニ供スヘシ其請求者アルトキハ相當代價ヲ以テ之ヲ拂下クルコトヲ得

第二十條　登錄商標ニ關スル書類ノ謄本ヲ要スル者ハ特許局ニ之ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ相當ノ手數料ヲ納ムヘシ

第二十一條　登錄商標ノ專用權ヲ侵シタル者ハ其商標主ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ

第二十二條　前條損害賠償ノ責ハ三年ヲ以テ期滿免除ノ期トス

第二十三條　他人ノ登錄商標ナルコトヲ知リ之ト同一又ハ類似ノ商標ヲ同一商品ニ使用シテ之ヲ販賣シタル者又ハ情ヲ知リ其商品ヲ受託販賣シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

詐欺ノ所爲ヲ以テ登錄證ヲ受ケタル者又ハ登錄ヲ受ケサル商標ヲ物品ニ使用販賣シタル者又ハ情ヲ知リ其商品ヲ受託販賣シタル者ハ罰前項ニ同シ

第二十四條　前條ノ場合ニ於テハ違犯ノ商標ヲ沒收ス其商品ト分離スヘカラサルモノハ商品ヲ破毀セシム

第二十五條　第二十三條第一項ノ犯罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

前項ノ場合ニ於テ告訴人ノ請求ニ依リ裁判官ハ假ニ其告訴ニ係ル物品ノ販賣ヲ差止ムルヿヲ得

第二十六條　此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十七條　此條例施行ノ細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第二十八條　此條例ハ明治廿二年二月一日ヨリ施行ス

◎勅令第八十四號　十二月十八日

特許條例

第一條　新規有益ナル工術機械製造品及合成物ヲ發明シ又ハ工術機械製造品及合成物ノ新規有益ナル改良ヲ發明シタル者ハ此條例ニ依リ特許ヲ受クルコトヲ得

特許ハ發明者ニ他人ヲシテ其承諾ヲ經スシテ前項ノ發明ヲ製作使用又ハ販賣セシメサル特權ヲ許スコトヲ謂フ

第二條　左ニ揭クル發明ハ特許ヲ受クルコトヲ得サルモノトス

一　飲食物嗜好物

二　醫藥並其調合法

三　特許出願以前公ニ用ヒラレタルモノ但試驗ノ爲メ公ニ知ラレタルコト二年以內ノモノハ此限ニ在ラス

第三條　特許ヲ受ケント欲スル者ハ一發明毎ニ發明ノ明細書及必要ノ圖面ヲ添ヘ農商務大臣ニ出願スヘシ但其願書明細書及圖面ハ特許局ニ差出スヘシ

第四條　特許ヲ出願スル者アルトキハ特許局長ハ特許局審査官ヲシテ其發明ヲ審査セシメ特許ヲ與フヘシト査定シタルモノハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ特許原簿ニ登錄シ特許證下付ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條　特許證ハ農商務大臣之ニ署名シ特許局長之ニ副書シ明細書及必要ノ圖書ヲ添ヘ之ヲ下付スルモノトス

第六條　特許ノ年限ハ五年十年及十五年ノ三種ト爲シ原簿登錄ノ日ヨリ起算ス

第七條　公益ノ爲メ普及ヲ要スルモノ又ハ軍事上必要ナルモノ若クハ秘密ヲ要スルモノト認メタル發明ニハ農商務大臣ハ特許ニ制限ヲ附シ若クハ特許ヲ與ヘス又ハ既ニ與ヘタル特許ヲ制限シ若クハ之ヲ取消スコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テ農商務大臣ハ相當ト認ムル報酬ヲ發明者又ハ特許證主ニ與フルモノトス

第八條　他人ノ特許發明ヲ改良シ其改良發明ノ特許ヲ受ケント欲スル者ハ其特許證主ニ協議シ原發明ニ改良發明ヲ合セテ使用スルノ承諾ヲ經第三條ニ依リ出願スヘシ

特許證主其承諾ヲ拒ミタルトキハ其旨ヲ願書ニ記載シテ出願スルコトヲ得此場合ニ於テハ農商務大臣ハ原發明ヲ改良發明ニ合セテ使用スルノ特許ヲ改良發明者ニ與フルコトヲ得

改良發明者前項ノ特許ヲ受ケタルトキハ原特許證主ニ農商務大臣ノ相當ト認ムル報酬ヲ與フル義務アルモノトス

第九條　特許ヲ受ケタル者又ハ之ヲ受ケントスル者死亡シタルトキハ其權利ハ相續者ニ屬スルモノトス

第十條　特許ヲ受ケタル發明ト雖トモ左ニ掲クルモノハ其特許ヲ無効トス

一　新規又ハ有益ナラサリシコトヲ發見セラレタルモノ

二　第二條ニ該ルコトヲ發見セラレタルモノ

三　發明ヲ實施スルニ必要ナル事實ヲ故意ニ明細書ニ記載セサリシコトヲ發見セラレタルモノ

四　發明ヲ實施スルニ必要ナラサル事實ヲ故意ニ明細書ニ載記セシコトヲ發見セラレタルモノ

第十一條　特許局審査官特許出願ノ發明ヲ審査シ特許ヲ與フヘカラスト査定シタルトキハ特許局長ハ其査定書ヲ出願人ニ送付スヘシ

第十二條　前條ノ査定ニ服セサル者ハ特許局長ハ特許局ニ不服理由書ヲ差出シ再審査ヲ請求スル者アルトキハ特許局審査官ナシテ更ニ之ヲ審査セシムヘシ審査官再審査ヲ請求スル者アルトキハ特許局長ハ特許局審査官ナシテ更ニ之ヲ審査セシムヘシ審査官其不服理由ヲ不當ト査定シタルトキハ其査定書ヲ不服者ニ送付スヘシ

第十三條　特許局審査官特許出願ノ發明他人ノ特許出願中ノ發明ト抵觸シ又ハ他人ノ特許發明ト抵觸スト査定シタルトキハ特許局長ハ其抵觸ノ箇所ヲ關係人ニ告知シ其發明ニ關スル始末書ヲ差出サシムヘシ

關係人始末書ヲ差出シタルトキハ特許局長ハ之ヲ特許局審査官ニ付シテ發明ノ先後ヲ審査セシメ其査定書ヲ關係人ニ送付スヘシ

第十四條　前條ノ場合ニ於テ既ニ與ヘタル特許證ヲ取消シ出願ノ發明ニ特許ヲ與フルトキハ其特許年限ハ前特許證登錄ノ日ヨリ起算シ其年限ニ超ユルコトヲ得ス

第十五條　第十二條ノ再査定及第十三條ノ査定ニ服セサル者ハ特許局ニ審判ヲ請求スルコトヲ得

第十六條　特許證主其權利ノ他特許證主ノ權利ト撞着スルコトヲ發見シタルトキハ其權利ヲ確定スル爲メ特許局ニ審判ヲ請求スルコトヲ得

第十七條　特許ヲ受ケタル發明第十條ニ該ルコトヲ發見シタル者ハ其特許ヲ無効トスル爲メ特許局ニ審判ヲ請求スルコトヲ得

第十八條　審判ヲ請求スル者アルトキハ特許局ニ於テ局長ハ審判長トナリ二人以上ノ審判官ト共ニ之ヲ審判スヘシ

第十九條　特許局ノ審判ニ對シテハ不服ヲ申立又ハ裁判所ニ訴フルコトヲ得ス

第二十條　第十三條ノ審査及特許局ノ審判ニ關シ關係人ニ於テ證據ヲ要スルトキハ其請求ニ依リ特許局長ハ其集取ヲ治安裁判所ニ囑託スルコトヲ得

第二十一條　第十六條第十七條ニ係ル費用ハ民事訴訟入費ノ例ニ依リ負擔スヘキモノトス

第二十二條　特許ハ制限ヲ附シ若クハ附セスシテ賣與讓與シ若クハ共有トナシ又ハ書入トナスコトヲ得此場合ニ於テハ特許局ニ請求シ契約ノ登錄ヲ受クヘシ登錄ヲ受ケサル契約ハ第三者ニ對シ法律上其効ナキモノトス

第二十三條　特許局ノ官吏ハ在職中特許ヲ出願シ又ハ特許ヲ新ニ有スルコトヲ得ス

但相續ニ由リ特許ヲ新ニ有スルハ此限ニ在ラス

第二十四條　特許ハ左ノ場合ニ於テ其効ヲ失フモノトス

一　特許證主相當ノ事故ナクシテ特許證ノ日附ヨリ三年ヲ經テ其發明ヲ實施公行セサルトキ

二　特許證主相當ノ事故ナクシテ其發明ノ實施公行ヲ三年間中止シタルトキ

三　特許證主其特許品ヲ外國ヨリ輸入シテ之ヲ販賣シ又ハ自己ノ權利ヲ侵スヘキ物品ヲ外國ヨリ輸入シテ販賣スル者アルコトヲ知リテ之ヲ默許シタルトキ

第二十五條　特許證主特許證ヲ毀損若クハ亡失シタルトキハ事由ヲ具シ再下付ヲ出願スルヿヲ得

第二十六條　特許證主其明細書若クハ圖面ノ不完全ナルコトヲ發見シタルトキハ特許ノ効力ヲ全クスル爲メ改訂明細書若クハ圖面ヲ添ヘ特許證ノ改訂ヲ出願スルコトヲ得但其發明ノ要部ニ變更ヲ生スルモノハ此限ニ在ラス

第二十七條　特許證主其明細書中ニ自己ノ發明ニアラサル事項ヲ誤テ自己ノ發明トシテ記載セシコトヲ發見シタルトキハ其削除ヲ出願スルコトヲ得

第二十八條　第二十六條第二十七條ニ依リ出願スルモノアルトキハ特許局長ハ其願書ヲ特許局審査官ニ付シテ審査セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ特許局審査官ノ査定ニ服セサル者ハ第十二條ニ依リ再審査ヲ請求スルヿヲ得

第二十九條　特許證主ハ其物品ニ農商務大臣ノ定メタル特許標記ヲ爲スヘシ

第三十條　特許ニ關シ出願又ハ請求スルモノハ左ノ手數料ヲ納ムヘシ

一　特許ヲ出願スルトキ　一發明毎ニ　金五圓

二　特許ノ賣與讓與共有又ハ書入契約ノ登錄ヲ請求スルトキ　一發明毎ニ　金三圓

三　特許證ノ再下付ヲ出願スルトキ　證書一枚毎ニ　金一圓

四　特許證ノ改訂又ハ明細書中ノ削除ヲ出願スルトキ　一發明毎ニ　金五圓

五　審判ヲ請求スルトキ

第三十一條　特許證又ハ改訂特許證ヲ受クル者ハ一證書毎ニ左ノ區別ニ從ヒ特許料ヲ納ムヘシ

一　五年ノ特許　金十圓

二　十年ノ特許　金十五圓

三　十五年ノ特許　金二十圓

第三十二條　特許局ハ時々特許發明ノ明細書及特許公報ヲ印刷シ衆庶ノ縱覽ニ供スヘシ其請求者アルトキハ相當代價ヲ以テ之ヲ拂下クルコトヲ得

第三十三條　特許ニ關スル書類ノ謄本又ハ圖面ノ調製ヲ要スル者ハ特許局ニ之ヲ請求スルヿヲ得

此場合ニ於テハ相當ノ手數料ヲ納ムヘシ

第三十四條　特許ヲ侵シタル者ハ其特許證主ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ

第三十五條　前條損害賠償ノ責ハ三年ヲ以テ期滿免除ノ期トス

第三十六條　他人ノ特許品ヲ僞造シテ使用若クハ販賣シタル者又ハ情ヲ知リ僞造品ヲ使用若クハ受託販賣シタル者又ハ他人ノ特許工術ヲ竊用シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

特許證主ノ權利ヲ侵スヘキ物品ナルコトヲ知リ之ヲ外國ヨリ輸入シテ使用若クハ販賣シタル者又ハ情ヲ知リ其輸入シタル物品ヲ使用若クハ受託販賣シタル者ハ罰前項ニ同シ

第三十七條　前條ノ場合ニ於テハ其犯罪ノ物件ヲ沒收シテ特許證主ニ給付シ其既ニ賣捌キタルモノハ代價ヲ追徵シテ之ヲ給付ス

第三十八條　詐欺ノ所爲ヲ以テ特許證ヲ受ケタル者又ハ特許ヲ受ケサル物品ニ特許標記若クハ之ニ類似シタル標記ヲ爲シテ販賣シタル者又ハ情ヲ知リテ其物品ヲ受託販賣シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條　第三十六條ノ犯罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

前項ノ場合ニ於テ告訴人ノ請求ニ依リ裁判官ハ假ニ其告訴ニ依ル物品ノ使用若クハ販賣ヲ差止ムルコトヲ得

第四十條　特許證主其特許品ニ第二十九條ノ特許標記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキハ告訴又ハ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス

第四十一條　被告人特許ノ無効タルコトヲ以テ答辯セントスルトキハ其旨ヲ裁判所ニ申告シ其日ヨリ三十日以内ニ特許局ニ第十七條ノ審判ヲ請求スヘシ此場合ニ於テ裁判所ハ特許局ノ審判終結マテ其裁判ヲ中止スヘシ

第四十二條　此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第四十三條　此條例施行ノ細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第四十四條　此條例ハ明治二十二年二月一日ヨリ施行ス

第四十五條　明治十八年四月第七號布告專賣特許條例ハ此條例施行ノ日ヨリ廢止ス

但專賣特許條例ニ依テ受ケタル專賣特許ハ此條例ニ依テ受ケタル特許ト同一ノ効アル者トス

專賣特許出願ノ此條例施行ノ日ニ於テ處分ヲ終ラサルモノハ此條例ニ依リ處分ス

○

朕意匠條例ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

●勅令第八十五號　十二月十八日(仝月仝日官報)

意匠條例

第一條　工業上ノ物品ニ應用スヘキ形狀模樣若クハ色彩ニ係ル新規ノ意匠ヲ按出シタル者ハ此條例ニ依リ其意匠ノ登錄ヲ受ケ之ヲ專用スルコトヲ得

第二條　左ニ揭クル意匠ハ登錄ヲ受クルコトヲ得サルモノトス

一　風俗ヲ害スヘキモノ

二　登錄出願以前公ニ知ラレ又ハ公ニ用ヒラレタルモノ

第三條　意匠ノ登錄ヲ受ケント欲スル者ハ一意匠毎ニ明細書及圖面ヲ添ヘ農商務大臣ニ出願スヘシ

但其願書明細書及圖面ハ特許局ニ差出ヘシ

第四條　意匠ノ登錄ヲ出願スル者アルトキハ特許局長審査官ヲシテ其意匠ヲ審査セシメ登錄ヲ許スヘシト査定シタル者ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ意匠原簿ニ登錄シ其登錄證下付ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條　登錄證ハ農商務大臣之ニ署名シ特許局長之ニ副署シ明細書及圖面ヲ添ヘ之ヲ下付スルモノトス

第六條　意匠專用ノ年限ハ三年五年七年及十年ノ四種ト爲シ原簿登錄ノ日ヨリ起算ス

第七條　意匠ノ專用ハ農商務大臣ノ定ムル物品類別ニ於テ出願人ノ指定シタル物品ニ限ル者トス

第八條　二人以上同一又ハ類似意匠ノ登錄ヲ出願スル者アルトキハ願書日附ノ先ナルモノヲ登錄ス

其日附同キモノハ共ニ之ヲ登錄セサルモノトス

但出願人協議ノ上連名ニテ其登錄ヲ出願スルトキ又ハ其出願ヲ取消ス者アリテ出願者一人トナリタルトキハ此限ニ在ラス

第九條　意匠ノ登錄ヲ受ケタル者又ハ之ヲ受ケントスル者死亡シタルトキハ其權利ハ相續者ニ屬スルモノトス

第十條　他人ノ委託又ハ雇主ノ費用ヲ以テ按出シタル意匠ノ登錄出願ノ權利ハ其委託者若クハ雇主ニ屬ス但別ニ契約アル場合ニ於テハ此限ニ在ラス

第十一條　登錄ヲ受ケタル意匠ト雖モ第二條ニ該ルコトヲ發見セラレタルモノ又ハ第八條第十條ニ違ヒ登錄ヲ受ケタルコトヲ發見セラレタル者ハ其登錄ヲ無効トス

第十二條　意匠ノ審査査定審判ニ關スル事項ハ總テ特許條例ヲ適用ス

第十三條　意匠專用權ハ制限ヲ附シ若クハ附セスシテ賣與讓與シ若クハ共有トナシ又ハ書入ト爲スコトヲ得此場合ニ於テハ特許局ニ請求シ契約ノ登錄ヲ受クヘシ登錄ヲ受ケサル契約ハ第三者ニ對シ法律上其効ナキモノトス

第十四條　特許局ノ官吏ハ在職中意匠ノ登錄ヲ出願シ又ハ意匠專用權ヲ新ニ有スルコトヲ得ス但相續ニ由リ意匠專用權ヲ新ニ有スルハ此限ニ在ラス

第十五條　登錄意匠主其登錄証ヲ毀損若クハ亡失シタルトキハ事由ヲ具シ再下付ヲ出願スルコトヲ得

第十六條　登錄意匠主其明細書若クハ圖面ノ不完全ナルコトヲ發見シタルトキハ登錄ノ効力ヲ全クスル爲メ改訂明細書若クハ圖面ヲ添ヘ登錄證ノ改訂ヲ出願スルコトヲ得但其意匠ニ變更ヲ生スルモノハ此限ニアラス

第十七條　登錄意匠主ハ其意匠ヲ應用シタル物品ニ農商務大臣ノ定メタル登錄標記ヲ爲スヘシ

第十八條　意匠ニ關シ出願又ハ請求スル者ハ左ノ手數料ヲ納ムヘシ

一　意匠ノ登錄ヲ出願スルトキ　一意匠ニ付物品一類毎ニ　金五十錢

二　登錄意匠ノ賣與讓與共有又ハ書入契約ノ登錄ヲ請求スルトキ　一意匠ニ付物品一類毎ニ　金三圓

三　登錄證ノ再下付ヲ出願スルトキ　證書一枚毎ニ　金一圓

四　登錄證ノ改訂ヲ出願スルトキ　一意匠ニ付物品一類毎ニ　金二圓

五　審判請求スルトキ　一事件毎ニ　金七圓

第十九條　意匠登錄證又ハ其改訂登錄證ヲ受クル者ハ意匠ヲ應用スル物品一類毎ニ左ノ別區ニ從ヒ登錄料ヲ納ムヘシ

一　三年ノ專用　金一圓

二　五年ノ專用　金二圓

三　七年ノ專用　金四圓

四　十年ノ專用　金八圓

第二十條　登錄意匠ニ關スル書類ノ謄本若クハ圖面ノ調製ヲ要スル者ハ特許局ニ之ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ相當ノ手數料ヲ納ムヘシ

第二十一條　登錄意匠ノ專用權ヲ侵シタル者ハ其意匠主ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ

第二十二條　前條損害賠償ノ責ハ三年ヲ以テ期滿免除ノ則トス

第二十三條　他人ノ登錄意匠ナルコトヲ知リ之ヲ同一物品ニ應用シテ之ヲ販賣シタル者又ハ情ヲ知リテ其物品ヲ受託販賣シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

登錄意匠主ノ權利ヲ侵スヘキ物品ナルコトヲ知リ之ヲ外國ヨリ輸入シテ販賣シタル者又ハ情ヲ知リ其物品ヲ受託販賣シタル者ハ罰前項ニ同シ

詐欺ノ所爲ヲ以テ登錄證ヲ受ケタル者又ハ登錄證ヲ受ケサル意匠ヲ應用シタル物品ニ登錄標記若クハ類似ノ標記ヲ爲シテ販賣シタル者又ハ情ヲ知リ其物品ヲ受託販賣シタル者ハ罰第一項ニ同シ

第二十四條　前條第一項第二項ノ場合ニ於テハ其犯罪ノ物件ヲ沒收シテ登錄意匠主ニ給付シ其賣捌キタルモノハ代價ヲ追徵シテ之ヲ給付ス

第二十五條　第二十三條第一項第二項ノ犯罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

前項ノ場合ニ於テ告訴人ノ請求ニ依リ裁判官ハ假ニ其告訴ニ係ル物品ノ販賣ヲ差止ムルコトヲ得

第二十六條　登錄意匠主第十七條ノ登錄標記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキハ告訴又ハ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス

第二十七條　此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十八條　此條例施行ノ細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第二十九條　此條例ハ明治二十二年二月一日ヨリ施行ス

●明治二十三年五月二十九日法律第三十九號

市町村會議員選擧罰則

第一條　凡テ選擧資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シテ選擧人名簿ニ記載セラレタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

議員タルコトヲ得サルノ實ヲ告ケスシテ議員トナリタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二條　投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品手形若クハ公私ノ職務ヲ選擧人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約

束シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

其授與又ハ約束ヲ受ケタル者亦同シ

第三條　第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ選擧會場ノ近傍若クハ選擧人往來ノ途中ニ於テ選擧人ニ酒食ヲ供シ又ハ選擧會場ニ往復スル爲車馬ノ類ヲ給シタル者ハ第二條物品授與ノ例ニ依リ處斷ス

其供給ヲ受ケタル者亦同シ

第四條　第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ選擧人ノ爲ニ選擧會場ニ往復スル車馬賃又ハ路費若クハ休泊料ノ類ヲ代辨シ又ハ代辨スルコトヲ約束シタル者ハ第二條金錢授與ノ例ニ依リ處斷ス

其代辨又ハ約束ヲ受ケタル者亦同シ

第五條　第二條第三條及第四條ニ記載シタル所業ヲ爲シテ第二條ニ記載シタル目的ヲ達シタル者ハ刑法第二百三十四條ノ例ヲ以テ論ス

第六條　第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ撰擧人ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七條　第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ選擧人ヲ脅逼シ拐引シ若クハ其往來ノ便ヲ妨ケ若クハ詐僞ノ手段ヲ以テ其選擧權ノ施行ヲ妨害シタル者ハ第六條暴行ノ例ニ依リ處斷ス

第八條　第六條及第七條ニ記載シタル所業ヲ爲シテ第二條ニ記載シタル目的ヲ達シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九條　選擧人ヲ脅逼シ若クハ選擧會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若クハ刼奪スルノ目的ヲ以テ多衆ヲ嘯聚シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其情ヲ知リ嘯聚ニ應シタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條　選擧ノ際選擧ニ關スル吏員若クハ選擧掛ニ暴行ヲ加ヘ又ハ暴行ヲ以テ選擧會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若クハ刼奪シタル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十一條　多衆ヲ嘯聚シテ第十條ノ罪ヲ犯シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其情ヲ知リ嘯聚ニ應シタル者ハ十五日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條　第九條第十條第十一條ノ場合ニ於テ犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帶シタルトキハ各本刑ニ一等ヲ加フ

第十三條　選擧會場所在ノ郡市内ニ於テ選擧ノ氣勢ヲ張ル爲多衆集合シ若クハ隊伍ヲ組ミテ往來シ又ハ篝火松明ヲ焚キ若クハ鐘鼓法螺喇叭ノ類ヲ鳴ラシ旗幟其他ノ標章ヲ用ヰル等ノ所業ヲ爲シ警察官ノ制止ヲ受ルモ仍其命ニ從ハサル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十四條　被選人タルコトヲ得ル者ヲ指シテ被選人タルコトヲ得ス又ハ當選ヲ承諾スルノ意ヲシトノ虚報ヲ流傳セシメタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條　戎器又ハ兇器ヲ携帶シテ選擧會場ニ入リタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條　第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ張札ノ類ヲ公然揭示シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條　他人ノ姓名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲シ又ハ選擧人タルコトヲ得スシテ投票ヲ爲シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條　當選人第二條乃至第十六條ニ依リ刑ニ處セラレタルトキハ其當選ハ無効トス

第十九條　本法ニ規定シタルモノヽ外刑法ニ正條アルモノハ各々其條ニ依リ重キニ從テ處斷ス

第二十條　本法ニ關スル犯罪ハ六箇月ヲ以テ期滿免除トス

第二十一條　本法ハ市町村會ノ外市制町村制竝ニ明治二十二年法律第十一號ニ據リテ開設スル各種ノ議會ノ議員選擧ニモ適用ス

◉明治二十三年五月二十九日法律第四十一號

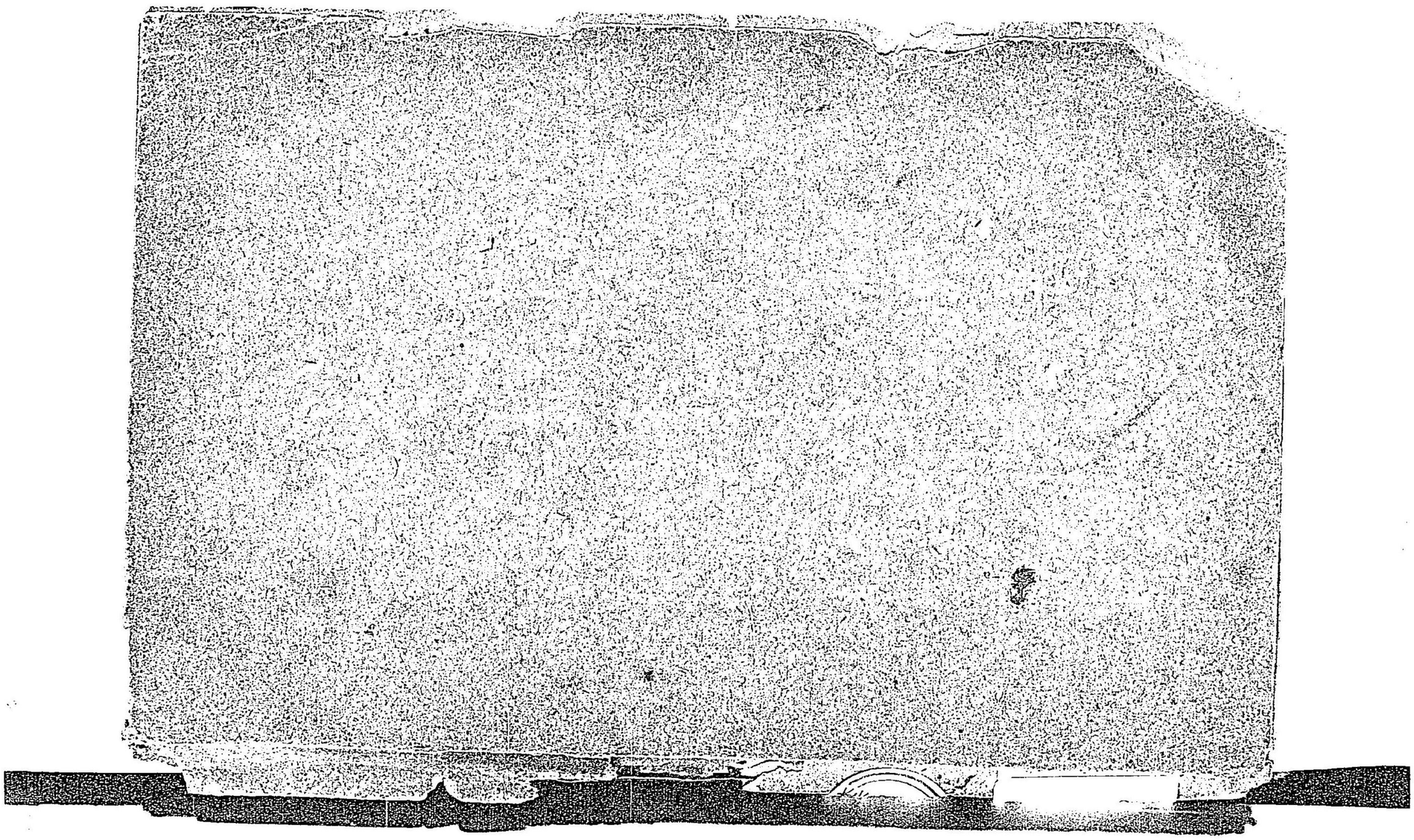
衆議院議員撰擧法罰則補則ヲ府縣會議員撰擧法ニ適用ノ件

明治二十二年二月法律第六號府縣會議員選擧規則ニ依ル選擧ニハ府縣制ヲ施行スル迄ノ間衆議院議員選擧法罰則補則ヲ適用ス但其ノ第二條第一項ニ衆議院議員選擧法第九十二條ヲ適用スル場合ニ於テハ府縣會議員選擧規則第六十二條其ノ第二條第二項ニ衆議院議員選擧法第九十三條ヲ適用スル場合ニ於テハ府縣會議員選擧規則第六十三條ヲ適用スルモノトス

一府縣會議員選擧規則中此ノ法律ニ矛盾スルモノハ効力ヲ有セス

明治二十三年七月九日印刷
同　年同月十日御届
（實價金貳拾五錢）

編輯兼發行者　大阪市西區土佐堀五丁目八十四番屋敷寄留士族　福富恭禮

印刷者　大阪市東區平野町四丁目九十一番屋敷（日進堂）　喜田甚太郎

發賣所　大阪市西區土佐堀五丁目　耕文社